

日本語マニュアル

2021年度01版

FREEバージョン専用

RAPID BIKE

MASTER FREE

END-USER SOFTWARE
FOR RAPID BIKE MODULES





INSTALLATION AND USE

PCスペック・システム・インストール	P2
メイン画面・メニュー・ツールバー	P3-P7
MAP画面表示・機能・インジェクション説明	P8-P12
MAPロック&解除	P13
RB-O2等	P14-P15
TC/LC設定・シフター関係	P16-P20
TPS設定・ギア設定等	P20-P22
MAPセル変更・コレクションポンプ(アクセル感度)	P22-P23
ピックアップ・Pitレーン	P24-P27
エンジンブレーキコントロール	P27-P28
ステータス画面・MyTuningBikeステータス画面	P29-P30
イタリア本社サーバー登録等	P32-P33
トラブルシューティング	P34-P39

簡単基本操作方法

**** MASTERソフトを事前にインストール・UPデートが済んでいる状態の場合 ****

- 1、ラピッドバイクの取付が終わったらエンジンをかける前にPCの準備を行って下さい。
- 2、PCのRAPIDBIKE-FREEソフトを起動しておきます。
- 3、車両に取り付けたコネクタに専用USBケーブルを取り付けてPCと通信を開始します。
- 4、通信が確認出来たらIGキーON、PC上の電圧を確認します。12V(1部モデル除く)が来ていることを確認出来たらエンジン始動します。
* 12Vが来ていない場合はトラブルシューティングページを参照して対応を行って下さい。
- 5、エンジン始動後、十分に暖気してからTPSの設定等を確認します。
* TPSがズれている場合はTPS設定ページから再設定を行って下さい。
- 6、インジェクションなどのセッティング変更を開始してください。MAPを変更した場合はSENDMAPを必ず行って下さい。
* MAPを変更してからSENDMAPを押さない場合は反映されません。書き込めたか確認する場合はGETMAPを押して下さい。
- 7、MAP以外の設定変更を行った場合は必ず変更後にAPPLYを押して下さい。APPLYを押さない場合は反映されません。
- 8、すべての変更が完了、保存する場合はFILE → SAVE AS(名前を付けて保存)を行って保存してください。
* MAP以外の設定変更ファイルを保存する場合はManagementRB → Save settingFileRACING(EVO)
- 9、通信を終了する場合は  ← Disconnect を押して通信を終了してください。
- 10、通信を再開する場合は  ← Connect を押してからGETMAPを押してPCに本体のMAPデーターを呼び出して下さい。

基本的な作業は上記の手順の繰り返しで行う事が可能です。

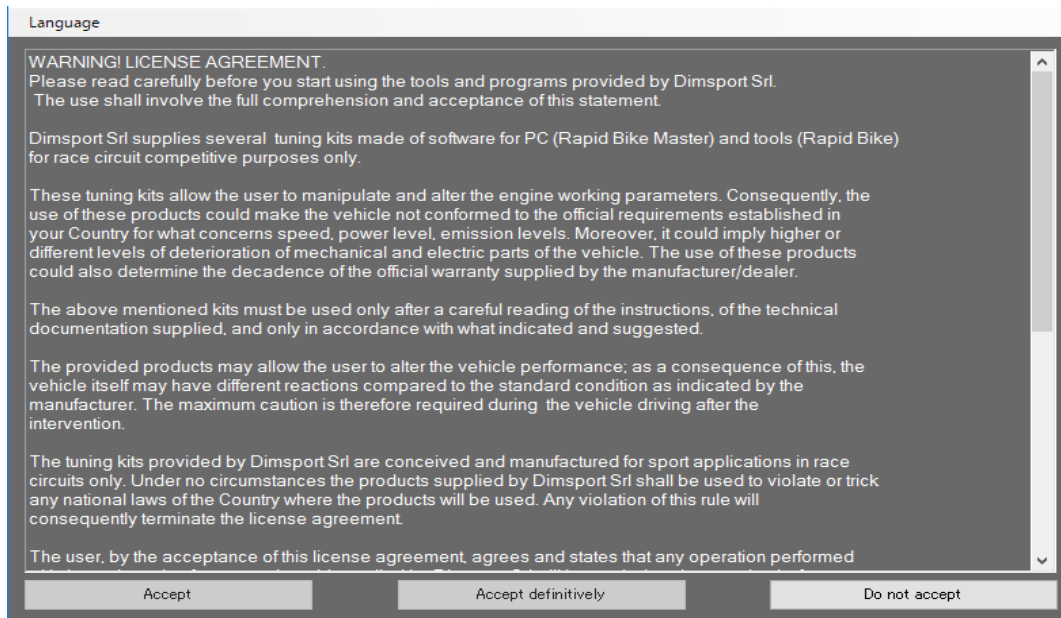
1. 推奨PCシステムの条件

- ・ Windows XP SP3 32/64ビット、512 MB RAM以上 (**推奨Windows 7、8、10以上1GB RAM搭載**)
- ・ 256色以上、最小画面解像度1024x768 以上
- ・ 2つ以上のUSBポート
- ・ インストール用CD-ROMドライブ 又はリーダー
- ・ ローカルドライブに200 MBの空き容量
- ・ インストール時に高速ADSLインターネット接続が有効になっている/定期的にWEB接続可能な環境
- ・ Internet Explorer 6以上

また、上記の要件を満たすWindowsオペレーティングシステムを搭載したVMwareFusion仮想マシンを使用してMac OS搭載のアップルコンピュータでソフトウェアをインストールする事も可能です。

2. インストールの準備

1. RAPIDBIKEマスターフリーソフトをダウンロードします。
ダウンロードページ <http://iam-japan.com/rapid-bike-2/>
2. もしも既にバージョン違いのラピッドバイクソフトウェアがインストールされている場合、全てのラピッドバイクソフト、関連するドライバーをアンインストールする必要があります。
3. CDがある場合はCDからインストール準備を行います。。(ダウンロードした場合、4から)
4. ダウンロードが終わったらZipファイルを解凍して下記を実行してください。
RapidbikeMaster setup.exeファイルをダブルクリックします。
5. ウィザードの指示に従います。(英語表示画面)
6. RapidBikeMasterFreeインストール後、の表示(バージョンによっては表示が変わる場合があります)



ソフトを起動するとこの画面が表示されます。本国の注意事項なので下記確認のボタンを押して下さい。

**** 右のスライドバーを下までスライドしたら下記ボタンを押して完了します ****

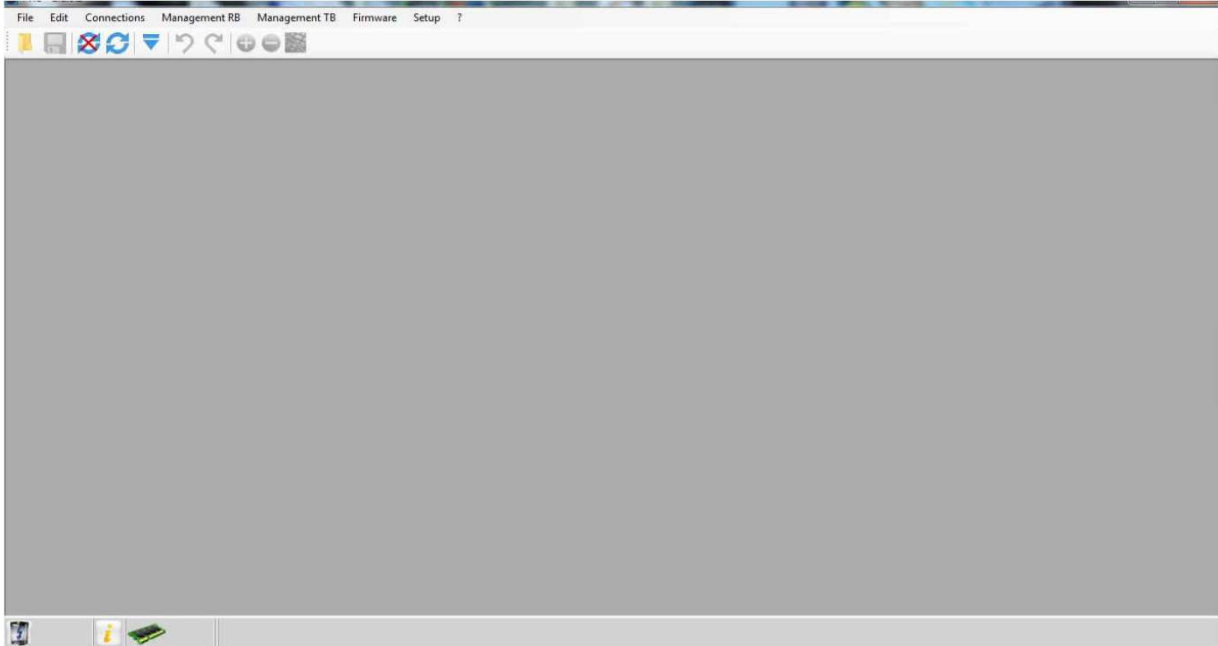
Accept = 同意する (起動時毎回”確認”事項が表示されます)

Accept definitively = 定義を受け入れる (このボタンを押すと次から表示されなくなります)

Do not accept = 同意しません。(ソフトが終了します)

3. ソフトウェアメイン画面

3.1 アイコンをダブルクリックすると、



メイン画面

**** 下記事項を必ず最初に行ってからご使用ください ****

*** 重要 *** インストール後にソフトウェアを初めて起動すると、アクティベーションの為、*** 重要 *** 電子メールアドレスが必要になります。この作業時は、インターネット接続が必要です。**** 初回1度きりの作業になります。**

その後、MASTERソフトのUPデート作業を必ず行ってから再度、使用してください。最新状態で使用するようして下さい。

*** 下記のSetUPメニューからCheck updateを開いて行う事もできます。**

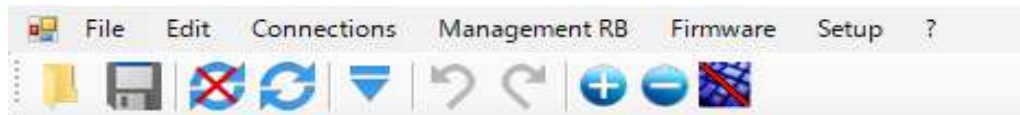
Rapid Bikeモジュールと専用USBケーブル(F27ADMUSB2)でPCと接続されている場合、ソフトウェアは自動的にラピッドバイクからマップを自動ダウンロードする設定になっています。(初期デフォルト設定)

まれにPCのスペック、接続状況によっては自動接続はエラーを引き起こす場合があります。その場合、自動接続、手動接続の設定を変更する事が可能です。使用しやすい方法に変更してください。



ここをクリックして変更を行います。チェックが外れている場合は手動でチェックがある場合は自動になります。

基本メニューバーの構成 (詳しい説明は次のページに詳細説明があります)



- | | |
|-------------------------|---|
| 1、File=ファイル | ラピッドバイクの書き換えメニューや名前を付けてファイルの保存など基本作業メニュー |
| 2、Edit=エディット | カットやコピーなどMAP制作・操作などのメニュー |
| 3、Connections=コネクション | 本体とUSBケーブルの接続やBLUEBIKE(オプションBluetoothモジュール)設定など |
| 4、ManagementRB=マネジメントRB | バックUPやMAPロック/解除などを行えます |
| 5、Firmware=ファームウェア | バージョン確認、バージョンUP,更新作業等を行います |
| 6、Setup=セットアップ | UPデートファイルの確認など |
| 7、?=クエスチオン | サポート情報など |

各メニューの詳細説明

File=ファイル

Programing Wizard=プログラミングウィザード

ラピッドバイクEVO、ラピッドバイクRACINGの車種チェンジ作業を行う時にこのプログラムを使用する事で簡単に作業が行えます。(MASTER-PROのみ表示)

Open=オープン

ラピッドバイクのマップファイルや関連したファイルを開く時に使用します。専用のデータファイルはマイドキュメントの”Rapidbike”ファイル内にあります。

Save=セーブ

開いている既存のMAPデーターを保存します。

Save as=セーブアズ

名前を付けて保存します。任意で保存するフォルダーやファイルに保存する事が可能です。通常はこの機能で保存先を指定してデーターを保存します。

Print=プリント

表示されているMAPセルデーターを設定されているプリンターで印刷します。

Print Preview=プリントプレビュー

印刷結果のプレビューを表示します。

Setup Page=セットアップページ

印刷するページのセットアップを行います。

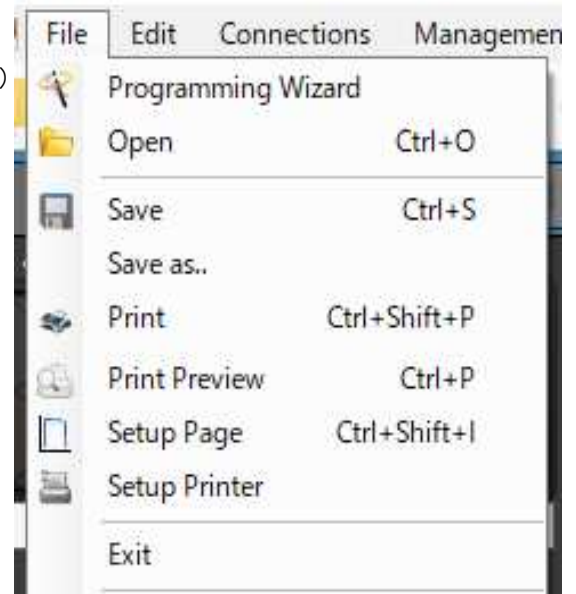
Setup Printer=セットアッププリンター

印刷時に使用するプリンターの設定、セットアップを行います。

Exit=エグジット

ソフトウェアを終了時に使用します。

* 上記メニューの下に最近使用したファイルが表示されるようになります。



ウィンドウズの基本操作と同じ使用方法の機能

Edit=エディット

Undo=アンドウ

最後の変更を1つ前の状態に戻します(複数回使用可能)。

Read=リード

消去した最後の操作を元に戻して復元します(複数回使用可能)。

Cut=カット

指定エリアの切り取りを行います

Copy=コピー

指定エリアのコピーを行います

Past=ペースト

指定エリアへ張り付けを行います

Plus=プラス

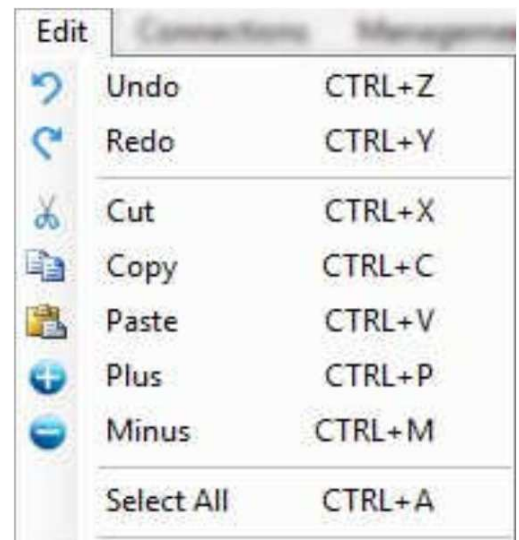
選択したセルの値の増加

Minus=マイナス

選択したセルの値の減少

SelectALL=セレクトオール

マップ内のすべてのセルを選択します。



Connections=コネクション

USBConnect=USBコネクト

PCとラピッドバイクの接続を有効にします。

BlueBikeConnect=ブルーバイクコネクト

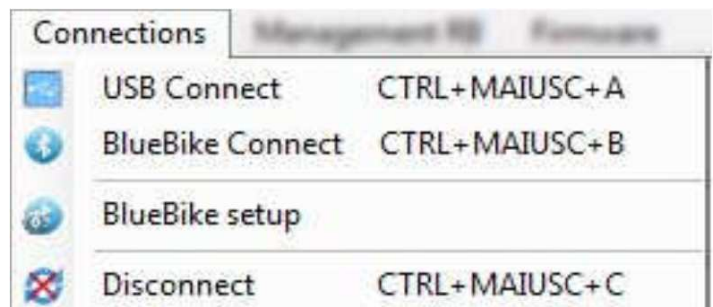
オプションブルートゥースパーツ”ブルーバイク”とペアリング接続する時に使用します。(別売)

BlueBikesetup=ブルーバイクセットアップ

使用するブルーバイク、ブルートゥースの設定を行います。

Disconnect=ディスコネクト

PCとラピッドバイクの接続を切断・中断します。



ManagementRB=マネジメントRB

Backup RB=バックアップRB

マップと設定(自動適応、rpmリミッタ、クイックシフトなど)を保存して、RBモジュールの完全バックアップを行います。これはプログラミング(バイクのモデル)とモジュールのシリアル番号に関連しています(3.8章を参照)。

RestoreBackupRB=リストアバックアップRB

以前にバックアップしたファイルをモジュール本体に読み出し・復元します。モジュールに違うモデルがインストールされていると復元されません。

LockMaps=ロックマップ (使用要注意)

ラピッドバイクのMAPをロックします。ロックしたシリアルキー以外では観覧・変更する事が出来なくさせる機能です。(MAPの値は*表示になります)。

UnlockMaps=アンロックマップ (使用要注意)

マップのロック機能を解除します。ロックしたシリアルキー以外でこの機能を使用すると全てのMAPの値が"0"になり消去されてからMAPのロックが解除になります。

SendsettingfileEvo(Racing)=センドセッティングファイルエヴォ(レーシング)

MAPデータ以外の設定ファイルをモジュールに転送・書き込みを行います。保存データは同じモデルにMAP以外の全ての設定をコピーして使用する事が出来ます。

SsvsettingfileEvo(Racing)=セーブセッティングファイルエヴォ(レーシング)

MAPデータ以外の設定ファイルをPCで保存を行います。

Firmware=ファームウェア

RB Manager=RBマネージャー

旧ラピッドバイク1-2-3専用モデルチェンジソフト(現在販売中モデルでは使用しません)

Update Rapid Bike EVO/Racing firmware from file=

(アップデートラピッドバイクEVO/Racingフロムファイル)

不定期に更新されるNewバージョンのファイルを使用してEVO(Racing)を最新のバージョンに更新を行います。(EVO-0001flx、Racing-1000flx)

Updateshift Assist firmware from file=

(アップデートシフターアシストファームウェアフロムファイル)

シフターアシストKITやBlipperKIT専用のUPデートファイルを使用してシフターアシスト/Blipperキット(CAN接続モデル)を最新の状態に更新します。

My Tuning Bike = MyTuningBikeのファームウェアをUPデートします。

RBモジュールに接続されたMyTuningBikeを個別にUPデートする事が出来ます。最高4つ(各気筒)まで接続して使用します。MTB本体のIDナンバー(1個の場合:ID1)

Info Firmware Rapid Bike = Rapid Bikeモジュールにロードされたファームウェアに関する詳細情報。

*** 注意 ***

RAPIDBIKE, RAPID BIKE EVO & RACINGのファームウェアUPグレード&ファイルは自動でUPデートを呼びます。その後ダウンロードされるようになっています。(インターネット接続状態のPC)

Setup=セットアップ

Get map at startup=ゲットマップ スタートアップ

チェックを入れておくとRBモジュール本体に保存されているファイルをPCに自動でダウンロード・画面を開きます(デフォルト) * 手動設定変更可能

Language=言語 使用する言語の変更が出来ます。

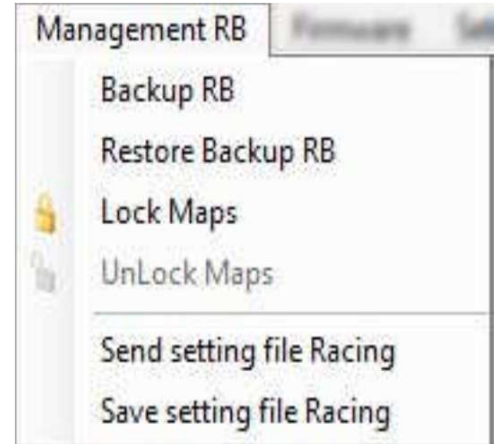
現在、日本語は未対応です。今後、対応予定です。

Check updates=チェックアップデート ファームウェアのUPデートを検索します。

FTP-Options = FTPオプション

ファームウェアUPデートのサーバー設定を変更します(通常は設定変更の必要はありません)

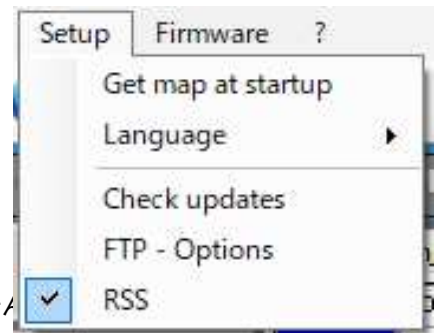
RSS = 画面右下に表示されるRSSニュースの表示・非表示設定



保存形式

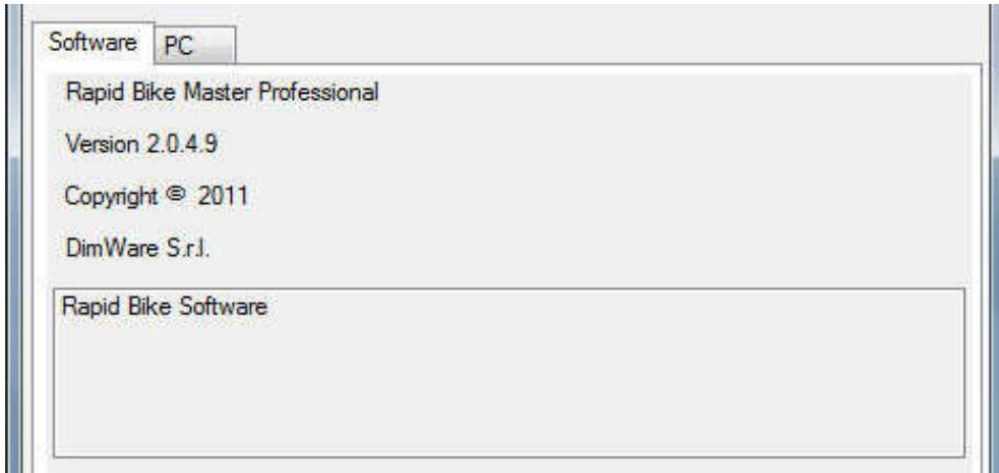
EVO = EPXファイル

RACING = EPRファイル



Menu ? = クエスチョンマーク ” ? ”

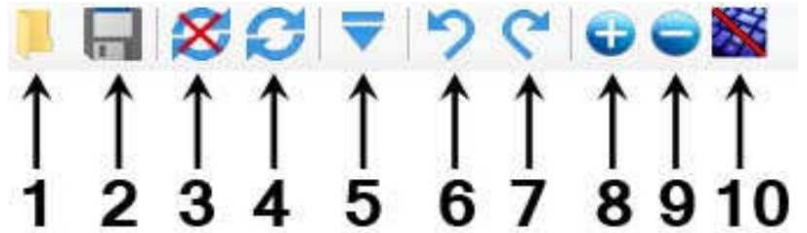
Software version = 現在使用中のソフトウェアバージョンの表示



PC = 現在使用中のコンピュータ操作システムに関する情報が表示されます。

メニューと同じ機能のボタンも画面に表示されているので必要に応じて使用する事が出来ます

1. Open=オープン=ファイルを開きます。
2. Save=セーブ=ファイルを保存します。
3. Disconnect=ディスコネクト=USBを切断。
4. Connect=コネクト=USBを接続します。
5. Get map=ゲットマップ=MAPをダウンロード。
6. Undo=アンドウ=前の状態に戻る。
7. Redo=リード=先の状態に戻る。
8. Plus=プラス=クリックしてセルの値を足します。
9. Minus=マイナス=クリックしてセルの値を引きます。
10. Edit=エディット=クリックすると赤い斜線が消えてセルに数値を打ち込んで変更が可能になります。



モジュールのコンテンツ(Rapid BikeとTuning Bikeの両方)をダウンロードした後、ソフトウェアのさまざまなセクションにアクセスできます。これらのセクションはフォームにグループ化されます。

Maps = メインMAP画面

Tuning Bike = ディーラーTuningBikeのメイン画面(TuningBike接続時のみ) * Mytuningbikeではありません

Auto Adaptivity = STD-O2センサー使用の自動適応MAP修正機能(標準ではOFFになっています)

TC - LC = トラクションコントロール&ローンチコントロール設定画面 (YOUTUNE装着時のみ使用可能)

Quick shift = クイックシフター設定メイン画面 (シフターキット装着時のみ変更可能)

RB Features = ラピッドバイク各種機能設定画面

Status = ラピッドバイク、マイチューニングバイクの状態表示画面

Maps	Tuning Bike	Auto Adaptivity	TC - LC	Quick Shift	RB Features	Status
------	-------------	-----------------	---------	-------------	-------------	--------

接続されて使用可能になりますので、接続されていない状態では開かない物もあります。

メインウィンドウの下部にステータスバーが表示されます。



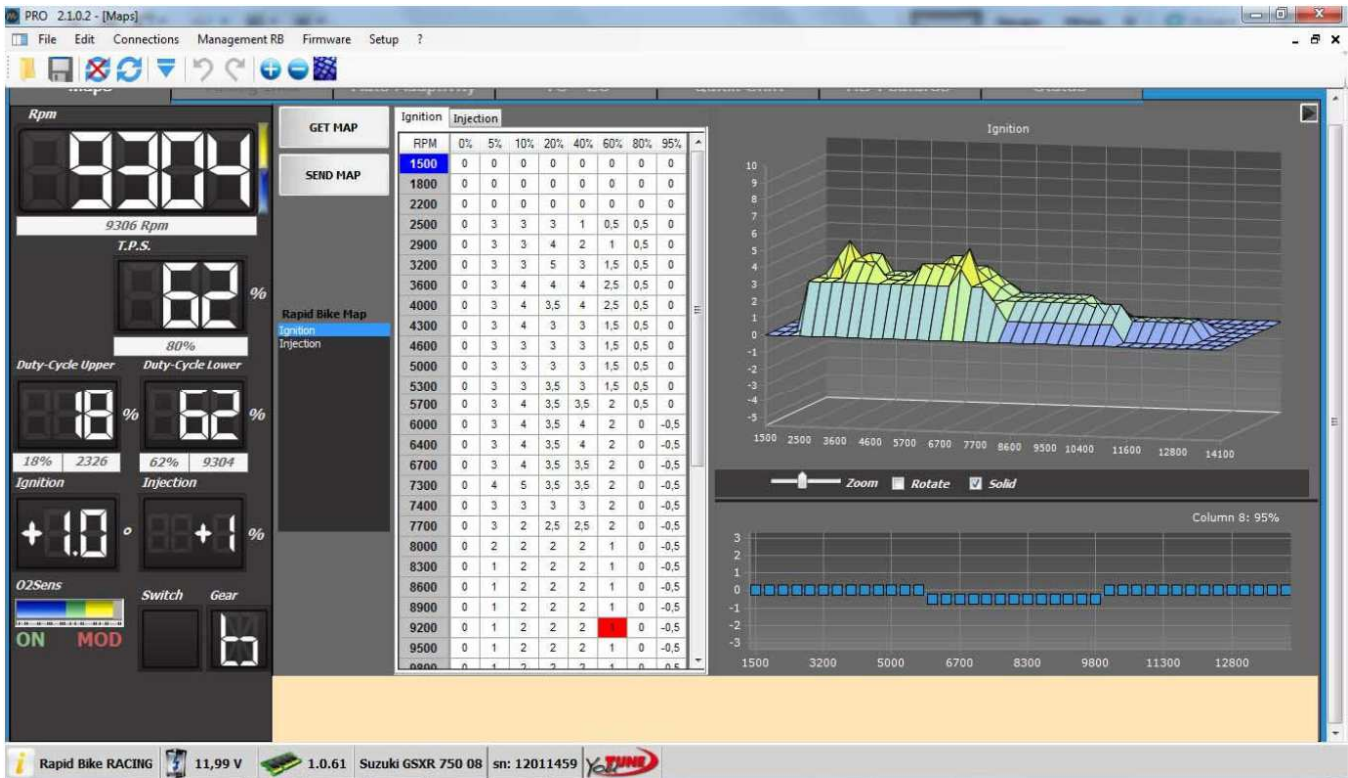
左から

- 1、接続されているラピッドバイクモジュール (EVOまたはRACING)
- 2、モジュールの供給電圧 (キーをONにして12Vが表示されない時は接続ミス、またはアース不良の場合があります)
- 3、モジュールのファームウェアバージョン
- 4、現在インストールされているメーカーとモデル表示
- 5、モジュールのシリアルIDナンバー
- 6, 7, 8、接続され、使用可能なオプションパーツ = YOUTUNE 、 Mytuningbike 、 QuickShiftなど (CAN通信オプション)

*** 接続不良、電源供給不良の場合は接続されていても表示されません。**

3.2 Maps

このフォームでは、コンピュータを使用してRapid Bikeモジュールに保存されたマップを表示、変更する事ができます。



システムの情報は、ウィンドウの左側に表示されます。

Digital rpm counter=デジタル回転数カウンター

ラピッドバイクモジュールがクランクシャフトセンサー信号からRPM(回転数)を読み取っているときに、青いマーカが表示されます。

このマーカが表示されない場合、モジュールは噴射時間からRPM(回転数)を計算・算出しています。

RBLレーシング装着時、イグニッションを管理している時に、黄色の垂直マーカが表示されます。
つまり、モジュールが実際にこの信号を変更できることを意味します。

黄色いマーカが消えているときはRapid Bikeモジュールは点火信号を変更できません。

ディスプレイの下の白いバーは、そのセッション中に到達した最高RPM値を示します。



T.P.S.=スロットルポジションセンサー

スロットル開度をパーセンテージで示します。
ディスプレイの下の白いバーは、そのセッション中に到達した最高TPS値を示します。

T.C. / Q.S. / C.P.=

トラコン、クイックシフター、コレクションポンプ
これらのマーカはトラクションコントロール(T.C.)、クイックシフター(Q.S)および加速ポンプ(C.P.)が作動したときに表示されます。
作動していない時は表示されません。
必要に応じて表示されます。



Duty-cycle: time of injectors (デューティーサイクル)

1エンジンサイクルでのインジェクタの開弁時間(通電時間)。各シリンダー、シングルインジェクタ(Lower)、2インジェクタを備えたバイクは下側インジェクター(Lower)、上側インジェクター(Upper)について表示されています。

Injection=インジェクション調整量のリアルタイム表示

Ignition=点火タイミング調整量のリアルタイム表示

(この表示はRAPIDBIKE-Racingのみ表示されます)

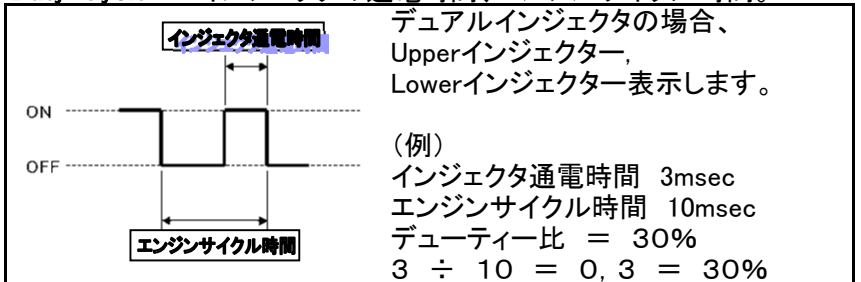
O2Sens: O2センサー信号を読み込み、グラフィック表示します。

(ラムダセンサ信号/λ(ラムダ)表示の値)

Gear: ギア=現在、使用しているギア表示

(EVO / Racingギアポジションセンサーモデルのみ表示)

Duty-Cycle: インジェクタの通電時間、エンジンサイクル時間。



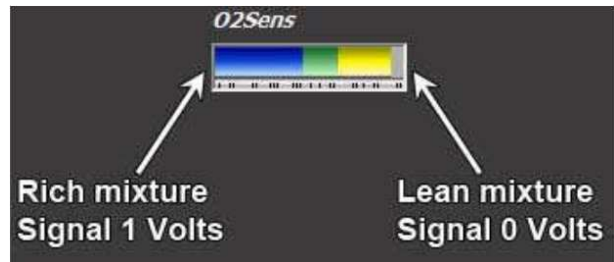
O2Sens: 車両に取り付けられたSTDセンサー

OEMナローバンドO2センサから読み取られた信号を示します。

この信号は0ボルト(希薄混合気)と

1ボルト(濃厚混合気)との間を移動する。

注意: メーカーはすべて同じタイプの狭帯域センサーを使用しているわけではないので、示されているものに特定の化学量論値を割り当てることは不可能です。



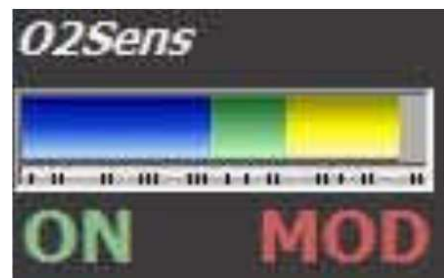
O2センサは、エンジンがオンになると、加熱プロセスを開始し、このプロセス中、O2センサ信号は、0ボルトから1ボルトまで、またはその逆(メーカーによって選択されたセンサの種類によって異なります)、

O2センサ信号が初期値に戻ると加熱プロセスが終了する物があります。

O2センサ信号の、この特有のサイクルはO2Sensインジケータに表示されます。

O2センサが熱くなると、インジケータの下にONと表示されます。

MODという単語は、O2センサーモジュレーターがO2センサー信号を調整するときに表示されます。これは、実際にモジュールで使用されているインジェクションマップのセルに"0"以外の値がある場合に発生します。



＊ ＊ 下記、設定範囲以上の値を入力する場合はExcelなどに値を記入してコピー＆ペーストで入力する事が出来ます。(+150-100/+10° -10°)

インジェクションMAPとイグニッションMAPはウィンドウ中央に表示されます。MASTER-FREEバージョンは設定値のインジェクションの測定単位はオープニングサイクル(Duty-Cycle)は1%で制限があるため左記の設定値まで変更可能
MAP変更の値は最大+30%、最小-10%で変更が可能です。

イグニッションMAPの変更単位は0,5角角度°です。
MAP変更の値は最大+3°、最小-3°で変更が可能です。
 MAPの表示はRPMが縦軸に分割され、アクセル開度が横軸に分割表示されています。

表示されているRPMの値ファームウェアで設定された最小値(インジェクション500rpm)から次のセルの値までの読み込みを行います。
 ＊500RPMより大きな値で使用して下さい。

＊RPM数値は変更可能です

最初のセル1500の読み込み範囲は500rpm～1999rpm

次のセル2000の読み込み範囲は2000rpm～2449rpm

セル2500の読み込み範囲は2500rpm～2999rpm

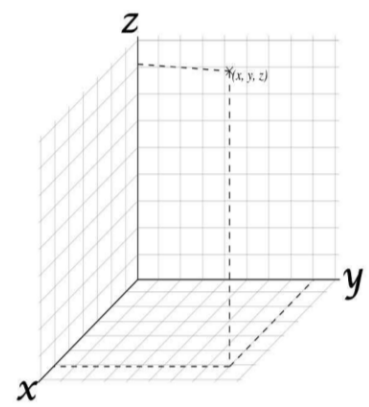
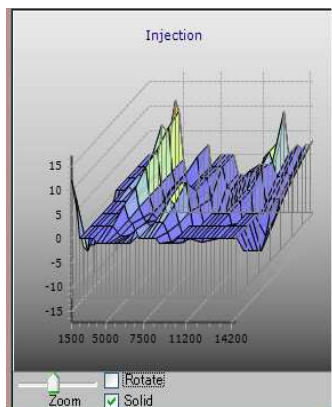
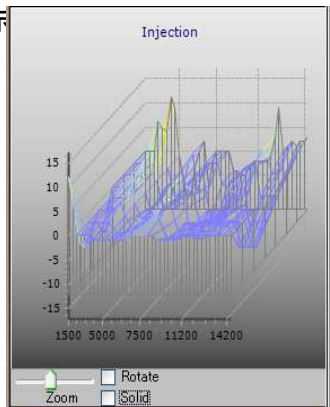
RPM	0%	7%	14%	29%
1500	12	-4	-6	-6
2000	8	-5	-2	-7
2500	4	-6	-2	-12
3000	4	3	-5	-11
3400	3	3	3	-10
3800	2	9	8	-3
4200	0	7	7	0
4600	0	9	6	2
5000	0	4	5	-4
5400	0	2	2	-12
5800	0	3	-1	-16

表示されているRPMの値を増減して変更する事も可能です。
 変更したいセルに合わせて、**ウィンドウ上部の＋ボタン**で変更します。
 また、アクセル開度(TPS)も同様に変更する事が可能です。
 作業状況に応じて変更して下さい。

RBフィーチャ(3.7.2章を参照)の形式で、RBFeatures(RBフィーチャーズ)設定でさらに調整を行うことができます。

ウィンドウの右側には2D、3Dのチャートが表示されます。

3Dチャート(右画像参照)
 X軸はTPSのステップを表示
 Y軸はRPMのステップを表示
 Z軸はMAPセルの値を表示

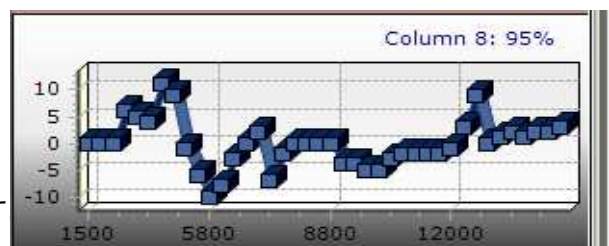


3Dチャート上で左クリックを押したままマウスを動かすと3Dチャートを自分の任意の方向に回転させて表示を見ることが出来ます。

自動で3Dチャートを回転させるには3Dチャート下部の”Rotate”にチェックを入れます。

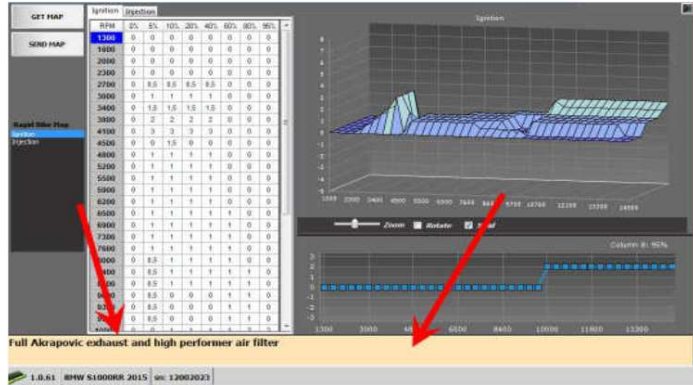
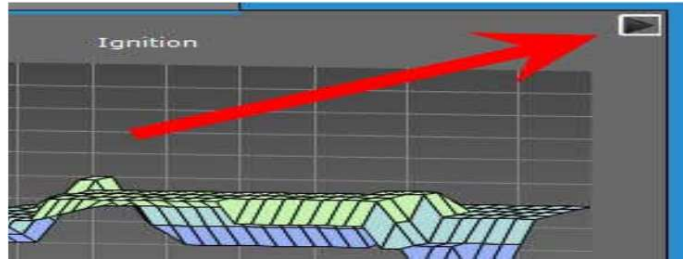
また、3Dチャートをカラー表示にする場合は3Dチャート下部の”Solid”にチェックを入れます。

2Dチャートは選ばれたMAPセルの値を表示します。
 必要なセルを選択すればいつでも2Dチャートは表示を変更します。
 もちろん2Dチャートを直接動かしてMAPを変更する事も可能です。
 水平軸はRPMの値を表示し、縦軸はMAPセルの値を表示しています。
 この場合はTPSカラム表示になります。
 水平軸にRPMカラムを選択した場合は水平軸はTPSの値を表示します
 この場合はRPMカラム表示となります。



隣の矢印が右を向いている時は3Dチャート、2Dチャートが表示されています。
 クリックして矢印が左を向いている時は3D、2Dチャートの表示は消え、インジェクション(イグニッション)のメインMAPのみの表示に切り替わります。

マップとチャートの下には、MAPの詳細情報をメモするためのメモフィールドがあります。



MAP	0%	5%	10%	20%	40%	60%	80%	95%
1500	12	-4	-6	-6	0	0	0	0
2000	8	-5	-2	-7	0	0	0	0
2500	4	-6	-2	-12	-12	-8	-4	0
3000	3	-3	-5	-11	-10	-7	-3	1
3500	3	3	3	-10	-7	-5	-2	0
3800	2	9	8	-3	-1	0	2	4
4200	0	7	7	0	2	4	5	7
4500	0	9	6	2	2	4	1	1
5000	0	4	5	-4	-4	-4	-4	-5
5400	0	2	2	-12	-11	-10	-9	-7
5800	0	3	-1	-16	-15	-14	-12	-11
6200	0	3	3	-17	-16	-16	-15	-14
6600	0	5	0	-17	-16	-16	-15	-15
6900	0	6	-1	-17	-16	-15	-14	-13
7300	0	7	1	-16	-15	-14	-12	-11
7700	0	3	-2	-14	-13	-12	-10	-9
8200	0	-14	-5	-15	-13	-12	-10	-8
8700	0	-20	-9	-12	-10	-8	-7	-5
8900	0	-20	-7	-9	-6	-4	-3	-1
9400	0	-16	-7	-9	-7	-6	-4	-2
9700	0	-9	-7	-10	-8	-7	-6	-4
9900	0	-11	-8	-11	-9	-7	-6	-3
10000	0	-2	-6	-11	-9	-8	-6	-4
10300	0	0	-6	-11	-8	-5	-2	1
10500	0	0	-6	-10	-7	-4	-1	2
10900	0	0	-7	-10	-7	-4	0	3

全画面表示の状態

2D,3D、表示画面の状態

3.2.1 Modify maps=モディファイマップス : マップを修正する

RAPIDBIKEはインジェクションMAPの修正、点火MAPの修正を行う事が出来ます。(点火はRACING使用時)

- 画面上部にある+ボタン、-ボタンを押して値を変更させる場合と、Editを使用して修正する方法の2種類。
- Editボタンをクリックして赤い斜線が無くなったなら直接、キーボードで値を入力する方法です。

縦軸のセル、横軸のセルを複数選択して同時に修正する事も可能です。

- 最初に修正したいセルを決めて左クリックをします。
- 次に修正したい範囲の端のセルにマウスポインターを移動して”Shift”ボタンを押しながらもう一度左クリックを押します。そして手を離すと複数のセルがブルーに変わり選択されている事が確認できます。
- 同じ値を書き込みたい場合は直接キーボードで数値を入力します。全体を別々に同じ値分だけ増やしたい場合は(減らす場合)+、-ボタンを押して変更して下さい。

2DチャートMAPのカーソルの変更でMAPの値を変更する事も可能です。

- 変更したい値の2DチャートのBOX上で左クリックを押します。
- 押したままマウスで上下して値を増減して下さい。MAPの値も上下する事で変わります。

3.2.1.1 Advanced modify functions

便利な機能が右クリックにあります。マップテーブル上にカーソルを移動し、右クリックして下記メニューを開きます。

- Cut=カット : 切り取り機能。MAPの値の上で実行すると値は”0”になります。
- Copy=コピー : コピー機能。カーソルを合わせた場所をコピーします。
- Paste = ペースト機能。コピーした情報を目的の場所に貼り付けます。
- Undo=アンドウ : アンドウ機能。変更する1つ前の状態に戻ります。
- Redo=リード : リード機能。戻っている場合、再び先の状態に戻せます。
- Select All=セレクトオール: セレクトオール機能。MAPを全て指定出来ます。
- Set selection to zero=セットセレクトオンゼロ : 指定したMAPのセルの値を”0”にします。
- Set map to zero=セットマップトウゼロ : MAPの値を全て”0”にします。
- Interpolation=インターポレーション: MAPセルのTPS軸(横軸)で複数の異なるMAP値を平均値で変更出来ます。

例) 変更 (Interpolation) 前の状態

RPM	0%	5%	10%	20%	40%	60%	80%	95%
1300	0	3	2	2	2	1	0	0
1650	0	0	4	3	2	2	1	0
2000	0	3	2	2	2	1	0	0
2350	0	6	3	3	2	1	1	-1
2700	0	9	8	6	4	3	2	-1
3050	0	7	5	3	2	2	1	-1
3400	0	9	8	6	4	3	2	-1
3750	0	2	1	1	3	2	0	-1

値の最大値から最小値までの平均値を割り出して変更してくれる機能です。平均を出したい最大値と最小値を入力

Shiftキーとマウス、左クリックで位置を指定したら右クリックで実行して下さい

例) 変更 (Interpolation) 後の状態

RPM	0%	5%	10%	20%	40%	60%	80%	95%
1300	0	3	2	2	2	1	0	0
1650	0	0	4	3	2	2	1	0
2000	0	3	2	2	2	1	0	0
2350	0	6	3	3	2	1	1	-1
2700	0	9	8	6	4	3	2	-1
3050	0	7	5	3	2	2	1	-1
3400	0	9	7	6	4	2	1	-1
3750	0	2	1	1	3	2	0	-1

3.2.2 Save maps 画面中央に表示されているボタン。MAPの書き込み等を行うボタンです。

GET MAP=ゲットマップ: ゲットマップ機能。RAPIDBIKE本体からMAPデータ等をPCにダウンロードします。

SEND MAP=センドマップ: センドマップ機能。設定した全てのMAP情報をRAMメモリに送信・書き込みします。

TPSやRPMの変更をしている場合、そのまま書き変更されます。ご注意ください。

*** 重要 * 3.2.3. Lock maps (ロックマップ機能)**

制作した大切なMAPデータをロックする事が出来ます。**MAPの表示はすべて"*"表示**になり数字は見えなくなります。

大切なMAPデータを他のユーザーに漏れる事を防ぎ、保護する事が出来ます。

別のPCを使用してMAPデータを開く場合はLockmaps状態になります。UnLockmapsを実行すると開くようになりますが、**MAPのセルがすべて削除されて"0"MAP**になり解除されますのでご注意ください。

但し、下記の機能はアクセス可能です。

- Quick shifter
- Auto-adaptivity (MyTuningBike装着時はMyTuningBike仕様可能)
- Traction Control - Launch Control
- RB Features内の下記メニュー
 - > Correction pump
 - > Calibration
 - > Pick-up signal
 - > Engine braking management
 - > Pit-lane limiter

MAPのロックは誰にでも解除が可能です。他店ディーラー(異なるUSBキー)やMASTER-FREEソフトで解除する事が出来るようになっていました。但し、UnLockmapsを実行すると全て"0"MAPになり消去されますので大切なMAPデータの流出をとめる事が出来ます。



別のUSBキーやキーレスソフトのMASTER-FREEを使用、エンドユーザーが使用した場合、レッド表示になります。
(色はWindowsの配色によって変わることがあります)

MAPロックを行う場合、Management RBメニューからLock mapsを選択して下さい。

MAPロック解除を行う場合、Management RBメニューからUnlock mapsを選択して下さい。

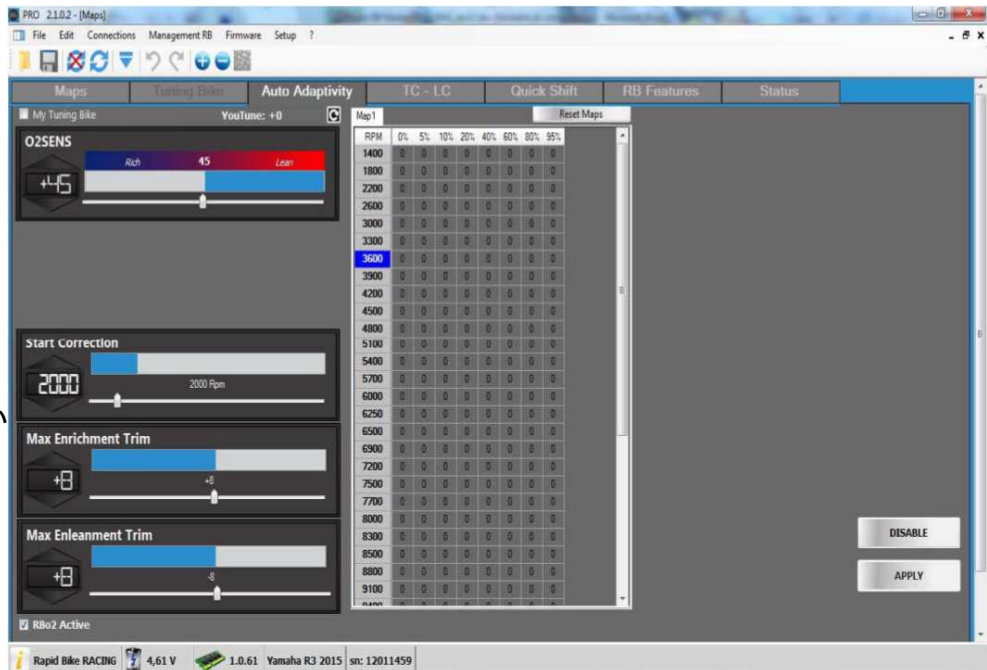
* MAPのロックが異なるUSBキーシリアルナンバーで行われている場合、MASTERソフトはバックアップを実行するように表示を促します。(chapter 3.8項を参照)

3.4 Auto Adaptivity= 自動適応マップ

このメニューはRAPiDBIKE EVO & RACINGモジュール専用のメニューです。
この機能はストックナローバンドO2センサーのシグナルを読み込んでインジェクション値を自動調整する機能です。

AutoAdaptivity=自動適応 機能の管理メニューです。MyTuningbikeのチェックを入れれば
オプションパーツのリアルタイム自動補正ツール”MyTuningbike”(別売)の調整が可能です。
* MTB接続状態でIGキーONすると自動でMTBメニューに切替わります

3.4.1 With OEM O2 sensor



*** RBO2 Active ***
*** 注意 ***

車両のO2センサーが装着されているモデルの場合、下記のチェックを入れてご使用下さい。
また、STD-O2センサーが無い、キャンセルして装着されていない場合は、チェックを外して下さい
(変更後、必ずAPPLYを押す)

表示画面の左側にこの機能を調整するパラメーターグラフが表示されています。
画面中央に、Rapid Bikeモジュールで計算された調整値を持つマップが表示されます。

この機能は走行している間にインジェクション調整MAPをAutoAdaptivityMAPに保存します。
ストックECUのインジェクション噴射タイムはRAPiDBIKEのメインMAPによりリアルタイムに修正されさらにAutoAdaptivity機能で追加された値を増減して調整されます。

自動適応マップは、Reset Mapsボタンをクリックすると消去できます。
逆にメインマップに反映する場合はMAPの上で右クリックして”AddCorrection”が表示されたら選択する事で自動でメインMAPに値を追加します。AutoAdaptivityMAPは”0”になります。

オートアダプティビティは、2つのラムダセンサーを装備した2つのシリンダーバイク(スイッチMAPを含む)
1つのラムダセンサーモデルで多気筒の場合1マップでモジュールが設定されている場合にのみ機能します。

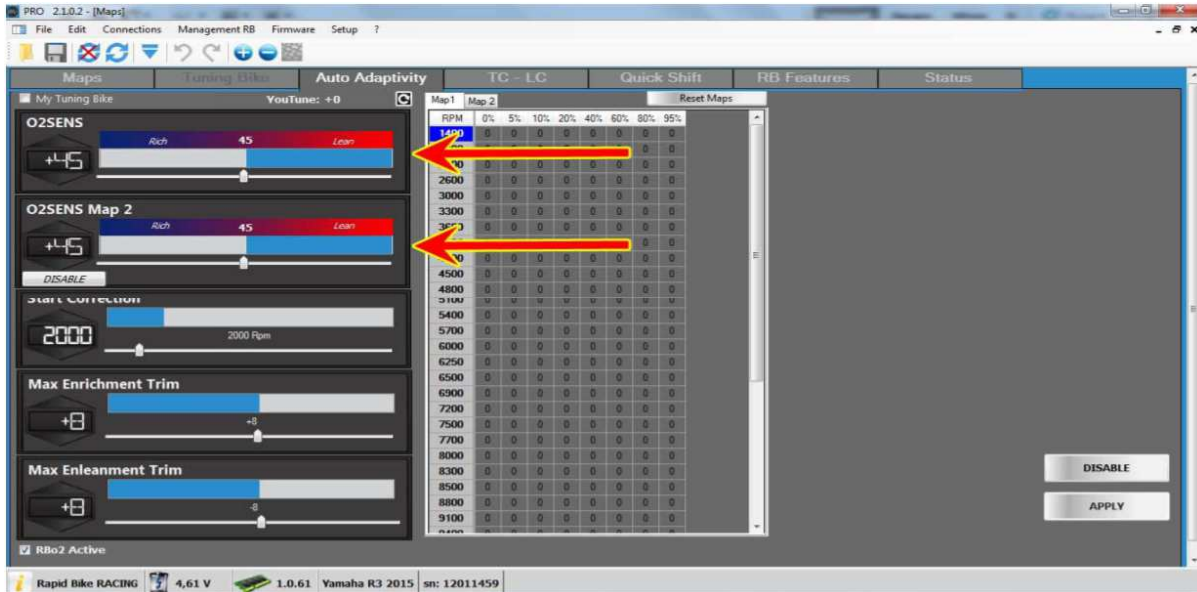
**** ナローバンドセンサーの為、A/F設定値ではなくλ(ラムダ値)を数値で設定します。**
例) +46表示の場合は10:1などの規則性が無い為、A/Fセンサー等で確認して設定してください。

通常は機能OFF、MTB装着時もOFF(ENABLEが表示されている状態)にして使用してください。

この機能はマップの最初の列(TPS0~4%)の調整・変更を行いません(減速時に誤修正を行わない為)。

*** 注意 *** 下記機能は右下の上部ボタン”DISABLE”が表示されている場合に使用可能です。”ENABLE”が表示されている場合はスライダーがグレースケールになり変更出来なくなっています。

マップスイッチを使用する場合は、2つの異なるO2SENSターゲット(マップスイッチの各位置に1つ)を使用する2つのトリムマップを設定・使用することができます。



通常、スイッチマップは、スイッチの異なるMAPにLean(薄め)マップ、もう一つのスイッチ位置によりRich(濃いめ)マップを入れるように使用されます(スイッチMAPの両方に同じMAPを入れて1つはLean(薄め)MAP設定、もう1つはRich(濃いめ)MAP設定をして修正MAPを作る事が可能です)

3.4.1.1 Settings

O2SENS : 最初の設定、燃料混合物の目標を設定します。(lambda(λ)表示の為、A/F値で表示されません)
(左から0V~右1V)

IMPORTANT=重要 : この設定は、ガスアナライザシステム(A/F測定器)を使用・測定出来るダイノマシン(ダイノベンチ)を使用して、測定する場合によってのみ使用・変更する必要があります。

*** 要リターダー装備ダイノマシン推奨 ***

これは、Autoadaptivity(自動適応性)の現在の値がどの化学量論値(A/F値)を計測・取得しているか、エンジンの危険な排出ガス規制(現在の値)を回避するかを検証するための唯一の適切な方法です。

*** 2次エアシステムモデルは計測時キャンセルする、またはRich方向に+2~程度変更して様子を見ます。***

Start Correction : AutoAdaptivityをスタートさせる為のrpmを設定します。設定されているrpmを超えると自動スタートします。また、最小rpm値に設定している場合は、AutoAdaptivityは機能を停止しています。

Max Enrichment Trim : Max Enleanmentトリムマップのリミット(正と負)を設定します。これはO2センサーが与えられた値以上の修正を行わないようにする為の設定です。

RBo2 Active : STD-O2センサー変調システムがアクティブ(働いている)かどうかを設定します。この設定は、YEC、HRCなどの異なるSTD以外のECUの装着、またはOEM O2センサを無効にするOEM ECUのリフラッシュ(書き換え)などでノーマルのO2センサがキャンセルされて取り外されている場合チェックマークを外します。ラピッドバイクのノーマルO2センサー設定を無効にする必要があります。

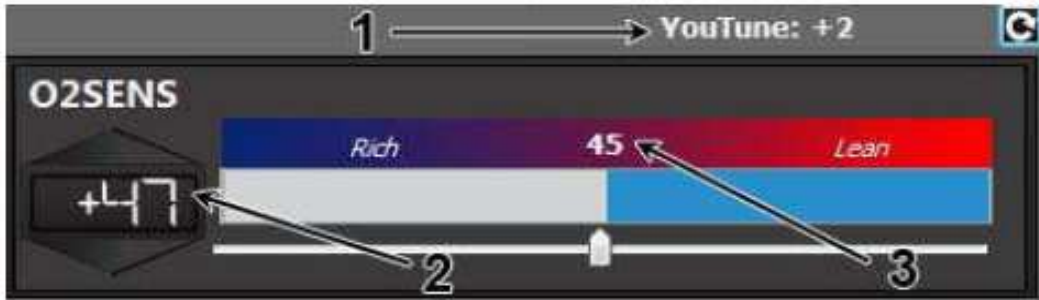
*** 注意 *** 新しい設定を保存する為に、変更後は必ずAPPLY(適用する)ボタンを必ず押して下さい。

3.4.1.2 Management with Youtune controller

(オプションパーツの”YOUTUNE”を装着している場合の説明)

YOUTUNEを使用してこの機能を有効/無効、目標O2Sensを+2から-2の範囲で変更することができます。YOUTUNEコントローラの変更値は、ソフトウェアの設定に加算または減算され、実行されます。

ソフトウェアは、YOUTUNEコントローラ(1)の値を表示し、software target(3)の値 + YOUTUNE値の合計結果のターゲット値(2)がいくつかを表示します。



ボタンをクリックすると、YOUTUNEコントローラで設定された値に従って情報が更新されます。

* * 詳細については、YOUTUNEコントローラのマニュアルを参照してください。

3.4.2 With My Tuning Bike device

(オプションパーツ”MyTuningBike=MTB”を装着している場合の説明)

オプションパーツ”マイチューニングバイク”はノーマルのナローバンドO2センサーに変わってマイチューニングバイク専用のワイドバンドセンサーを使用して自動適応補正を可能にします。ノーマルO2センサーでは不可能だった目標のターゲットA/F値をPC無しで変更する事が可能になります。正確に迅速に燃料補正・修正を自動で行えるようになります。

* STD-O2センサーとは別にMTB付属のワイドバンドO2センサーの取付が必要です *

* * 詳細は”MyTuningBike”のマニュアルでご確認下さい。

3.4.2.1 Management with Youtune controller

YOUTUNEコントローラは、この機能を有効/無効が可能で、走行しながら、0,1のステップで+1,0から-1,0の範囲内のA / F比目標を変更することができる。YOUTUNEコントローラの値は、A / F比率ターゲットがマップ全体に適用されるかどうかにかかわらず、ソフトウェアで設定されたターゲットに加算または減算されます。

ソフトウェアは常にYOUTUNEコントローラ(1)の値を表示、ターゲットがマップ全体のものであれば、software target値(3)+ YOUTUNE値のターゲット合計値(2)が何であるかを示します。

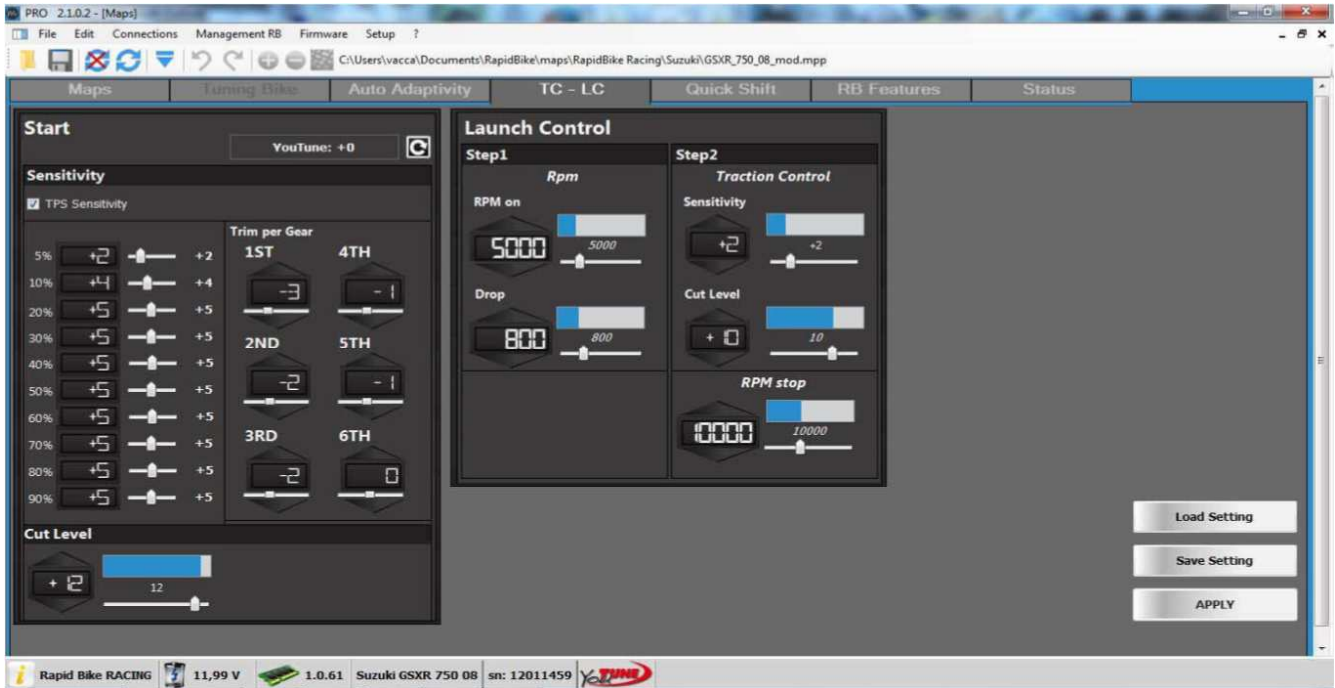


ボタンをクリックすると、YOUTUNEコントローラで設定された値に従って情報が更新されます。

* * 詳細については、YOUTUNEコントローラのマニュアルを参照してください。

3.5 Traction Control - Launch Control (TC - LC) (後付けトラクションコントロール&ローンチコントロール機能)

このフォームは、ラピッドバイクレーシング専用の機能、トラクションコントロール(TC)、およびローンチコントロール(LC)機能の管理に使用されます。(要YOUTUNE装着時のみ有効)



注意:これらの2つの機能は、ソフトウェアによって常に調整可能ですが、YOUTUNEコントローラが装着されている場合にのみ動作します。

3.5.1 Traction Control

トラクションコントロールは、最適な牽引力、パワーオーバーを抑え、簡単な設定を行う事で最適な乗り心地、路面追従性をあらゆる条件でより安全に走行する事を可能にします。

*** 前後ホイールの回転差異検知タイプでは無く、ピックアップシグナルを監視、急激な回転上昇や上昇率を読み込んで制御するタイプです ***

”Save Setting”ボタンは、すべてのトラクションコントロールとローンチコントロールの制作・変更をした設定ファイル(拡張子.tlc)でセーブ(保存)する事が可能です。

注意:tlcファイル内にあるデフォルト設定フォルダにあるファイルに上書きしないことをお勧めします。

”Load Setting”ボタンは、ローカルドライブに保存されたtlcファイル(標準設定ファイル、または、新しく制作し保存したオリジナルカスタ設定のファイル)をロード(書出し)します。

* 機能が使用できない場合、上書きする場合→マイドキュメント→Rapidbike→Firmware→tlc→適合車種

3.5.1.1 Sensitivity

このパラメータは、トラクションコントロールを介入させるために後輪がどれだけ回転するかを設定します。

感度(Sensitivity)のデフォルト設定はTPSベースです。”TPS Sensitivity”チェックボックスをオフにすると、すべてのスロットル開度で1つの値が動作します。

TPSベースの感度には、指定されたTPS値から次のTPS値までの10個のブレークポイントがあります。(5%ブレークポイントはTPSポジションの0%から9%になります)。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 5% : from 0% to 9% TPS | 50%: from 50% to 59% TPS |
| 10%: from 10% to 19% TPS | 60%: from 60% to 69% TPS |
| 20%: from 20% to 29% TPS | 70%: from 70% to 79% TPS |
| 30%: from 30% to 39% TPS | 80%: from 80% to 89% TPS |
| 40%: from 40% to 49% TPS | 90%: from 90% to 100% TPS |

調整の範囲は0(トラクションコントロールオフ)から10(最高感度)まで調整可能です。特定のスロットル開度、範囲でトラクションコントロールをオフにする事も可能です。

単一の感度値を使用する場合("TPS Sensitivity"チェックボックスをオフ)
調整の範囲は1(最低感度)から10(最高感度)までです。トラクションコントロールは、
YOUTUNEコントローラ(専用マニュアルを参照)によってのみオフにする事が可能です。

ラピッドバイクレーシングで**ギヤポジションセンサ対応モデル(特定車種のみ)**に接続されている場合、
ギヤ比に応じてさらに感度を調整する事が可能です。
各ギヤに設定された値は、各ブレークポイントの感度(またはTPSベースの感度が使用されない場合は主値)
を増減する事が可能になります。

3.5.1.2 Cut Level

このパラメータは、トラクションコントロールの介入中に噴射をカットする事によって、
エンジンパワーをどの程度、低減、(カット)させる必要があるかを設定します。
調整の範囲は1~13です。数値が高いほど、エンジンパワーの削減量(カット幅)が大きくなります。

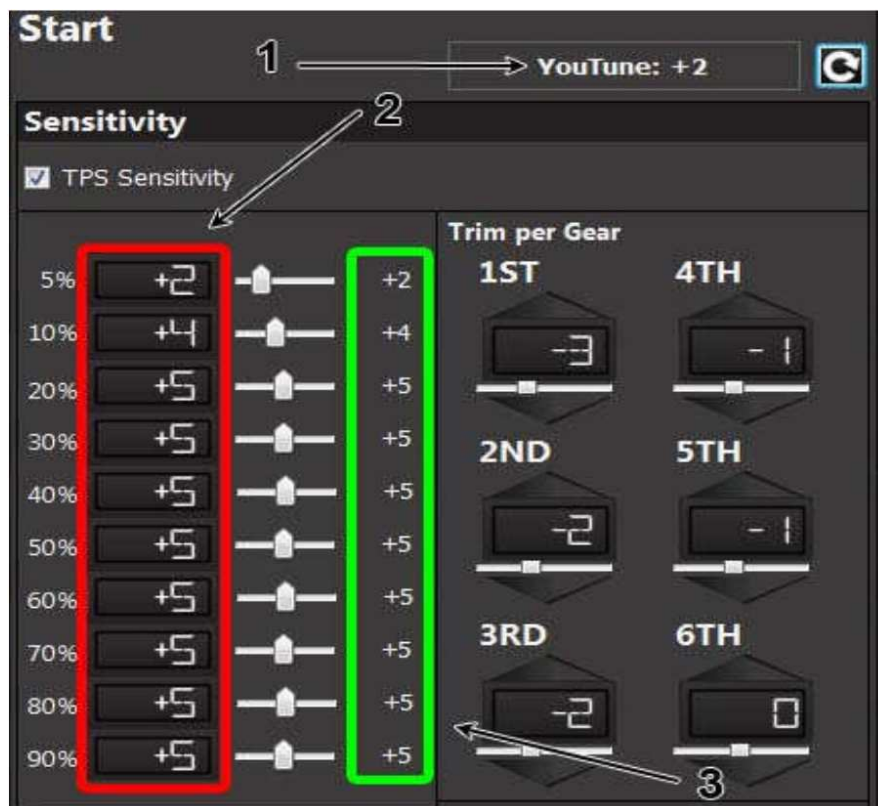
3.5.1.3 Management with Youtune controller

YOUTUNEコントローラは、ラピッドバイクレーシングのトラクションコントロールのアクティベーションキーです。
YOUTUNEの装着をしていない場合、トラクションコントロールは常にオフ(使用不可)になっています。
ライディング中、トラクションコントロールのON/OFF、感度を±5の範囲で変更する事が可能です。

**** 重要注意・確認をお願いします ****

YOUTUNEコントローラのTC表示部分が"0"の場合、TC機能がOFFではありません。機能します。
その為、街乗りなどでアクセルの急開閉、ギアチェンジ操作などを行ったときにTCが作動する事があります。
(YOUTUNE-RPMモード状態でモニターにTC表示が出ます)
かなり機敏に反応しますので使用前にアクセルレスポンステストや、設定値を-5~-1などテストして下さい。

PCIには、YOUTUNEコントローラ(1)の設定値、
ソフトウェア設定値(3)+ YOUTUNEの感度(2)が表示されます。



ボタンをクリックすると、YOUTUNEコントローラのセット値に従って設定情報が更新・表示されます。

最大設定値はソフトウェア設定 + YOUTUNEコントローラ設定 + ギヤ設定の
合計設定値になります。設定できる感度の範囲は、常に合計で1~10の範囲内で設定が可能です。

下記、設定事例

PCセッティング: 5 YOUTUNEセッティング: +5 ギアセッティング: +5 オーバーロール sensitivity: 10 (15にはなりません)	PCセッティング: 5 YOUTUNEセッティング: -5 ギアセッティング: -5 オーバーロール sensitivity: 1 (-5にはなりません)
---	--

特定のスロットル開度の感度(Sensitivity)設定”0”の場合、YOUTUNEコントローラ設定、またはギア設定に関係なく、そのブレークポイントのトラクションコントロールをオフにします。

YOUTUNEコントローラでTC-OFF設定されていると、トラクションコントロールは完全に無効になります。

* * 詳細については、Youtubeコントローラのマニュアルを参照してください。

3.5.2 Launch Control=ローンチコントロール : 発進制御

ローンチコントロールは、ライダーがスタート直後からフル加速スタートを補助する機能です。エンジン回転数を設定した特定の値で制限し、ライダーがクラッチを解放すると解除・加速をローンチ使用時の専用設定したトラクションコントロールを使用してスタート支援します。

* 間違ったタイミングによるクラッチの解放に起因する典型的なRPM低下(設定値以上)を検出した時、エンジン速度を制限するように機能は自動解除します。

この機能は2つのステップで動作します。

最初はエンジン速度(回転数)を制限し、2つ目は後輪の空転を避ける為にバイクの加速を制御します。

注:ローンチコントロール機能はアンチウィリーシステムはなく、リアタイヤの空転を避けるだけです。

3.5.2.1 Step 1

ステップ1 : エンジン速度(回転数)を制限し、ライダーがクラッチを解放、ドロップ回転数を確認するとするとファーストリミッターが自動解除されます。

最初に2つの設定を行います。

Start : 最初にキープするエンジン回転数を設定します。必要な回転数を設定して下さい。

Drop : ファーストリミット解除を検知させる為、エンジン回転数のドロップ回転数を設定します。

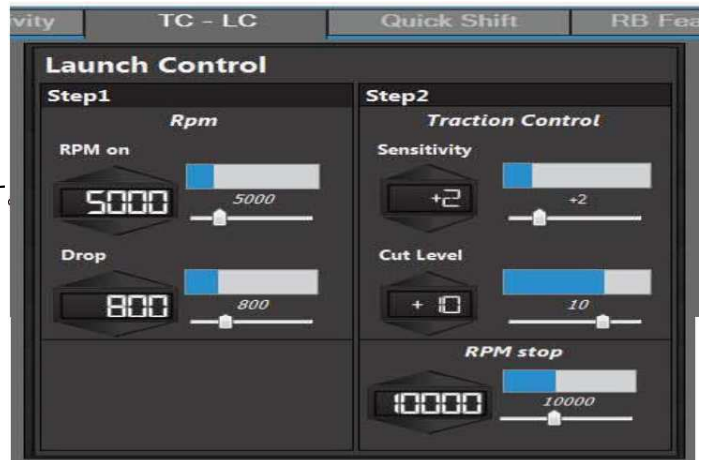
3.5.2.2 Step 2

ステップ1が終了するとすぐにステップ2が開始されます。

この段階で、後輪のスリップを避ける為に、特定のトラクションコントロール設定で、車体を制御、確実に素早いスタートを自動制御でコントロールします。

このステップでは、トラクションコントロールの感度とカットレベルを設定します。(第3.5.1.1章3.5.1.2章を参照) RPM停止設定を行い、ステップ2のRPM回転数を設定します。

ステップ2が終了すると、ラピッドバイクモジュールは一般的なトラクションコントロールの設定を使用します(3.5.1章)。



3.5.2.3 Management with Youtune controller

YOUTUNEコントローラはラピッドバイクレーシングの起動制御機能のアクティベーションキーです。

実際にはこのアクセサリを装着しない場合、Launch Controlは常にオフになっています。

Start設定のRPM値を表示、機能のオン/オフ、リアルタイムで異なるステップを表示する事ができます。

* * 詳細については、Youtubeコントローラのマニュアルを参照してください。

3.6 Quick Shift=クイックシフター (ラピッドバイクシフター・高性能燃料カット制御)

このメニューはオプションパーツ”Quick Shift”の設定修正を行う為に使用します。

*** 使用するモジュールやシフターなどによって表示・設定内容が変わる場合があります。(下記6ギア制御モデル)**



設定は次のとおりです。

*** RPM on :** シフターが機能する最小回転数(上方回転数)quickshifterは表示されている(設定変更可能)回転数より上で機能します。回転数を最小にしてしまうと機能しなくなります。(0以下=OFF)

参考: 2000RPM以下の設定はおすすめしません。設定値変更を行う場合の参考値にしてご検討ください。

*** Cut-off :** メインカット時間、シフトアップを可能にするために、燃料噴射信号の時間をカットします。(セッティング変更可能)

参考: 設定数字はカットを行う時間になります。値を増やすと入りやすくなりますがショックやタイムラグが増える事があります。設定値が減らず、少なすぎる場合(カット時間を減らす)はシフターが入りにくくなる、又は入らなくなります。

低回転でシフターをよく使いたい場合はカット時間を増やすと入りやすくなります。

*** Hold-ON :** フィルタ(Cut-off前にモジュールによって行われる) *** 通常はデフォルト設定で使用**

燃料噴射信号をカットした時のシリンダ内の希薄混合気の危険な状況を回避します。

0ms(マイクロ秒)よりも高い値の場合、モジュールはインジェクション信号をカットする噴射の終了を待ちます。

0msの場合、インジェクション信号は、すぐにアップシフト信号が受信されるように切断されます(危険な状況)

*** Hold-off :** フィルタ(時間セットのためにモジュール内で作られる)

*** 通常はデフォルト設定で使用**

それは、本当の上に向かうシフトの後シフト信号の上で不正なギアを避けます。

ECUがエラーを起こさない為の信号をキープ・リリース設定。

*** Cut-off by Gear * :** すべての変速ギアアップのカットオフ時間を設定(ラピッドバイクのギア介入モデルのみ)

(車体のギア表示ではなく、ラピッドバイクが介入してギヤポジションセンサを読取るモデルのみ対応・表示)

上記記載のCut-off機能を各ギアで設定できます。

回転上昇に応じてカットオフ時間を三つの異なる範囲・回転数に応じて、

*** Cut-off by Rpm :** 回転上昇に応じてカットオフ時間を三つの異なる範囲・回転数に応じて設定の追加変更を行う機能です。

メインCut-off(主遮断時間)に対して追加補正係数として機能します。目的に合わせて回転数を変更する事も可能です。

回転数(高回転時)シフターのカット時間を減らす(短く)する事でロスをなくしシャープにギアチェンジが可能になります。

*** Threshold :** ラピッドバイクがエンジン信号をカットする・反応するセンサーの電圧セット値。

*** * 通常はデフォルト設定で使用**

*** No Repeat Shift :** チェックボックスにチェックがある場合、ギアシフトレバーがニュートラル位置に戻るまで

ギアシフトUPを使用可能にしません。

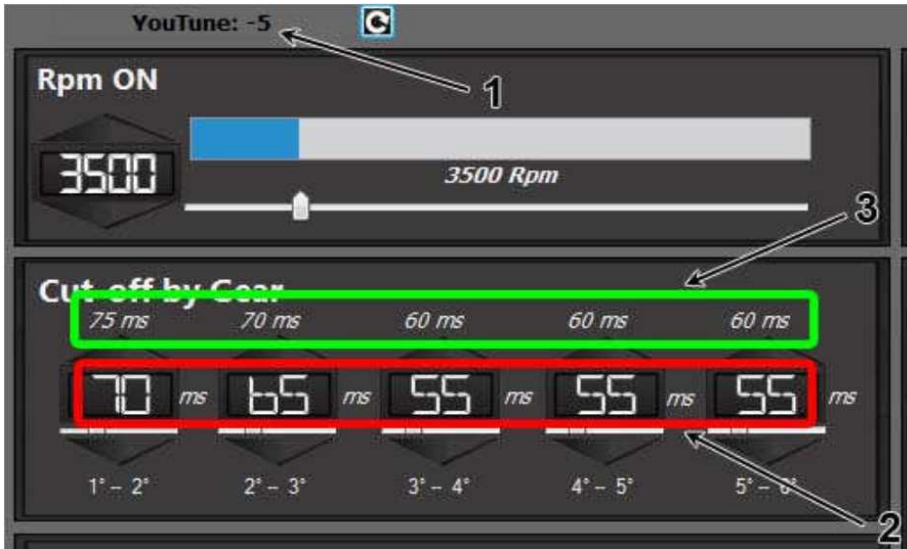
サーキットなどでシフトUP後、シフトレバーをキープしたままでもフューエルカットの誤作動等を起す事はありません。

チェックを外した場合、シフトレバーをキープしたままの状態でもCut-offが終了するので連続シフトUPも可能になります。

3.6.1 Management with Youtube controller

YOUTUNEコントローラーは、乗車中にシフター機能のオン/オフが可能で、メインCut-Offタイムを+ 20ms~-19msの範囲で変更する事ができます。この調整は、カットオフがシングル、各ギアの両方に値が設定されている場合に適用されます。

ソフトウェアは、Youtubeコントローラの値(1)と、結果として得られるカットオフ値(2)その値はソフトウェアターゲット(3)+ YOUTUNEの値として表示されています。



ボタンをクリックすると、YOUTUNEコントローラのセット値に従って設定情報が更新・表示されます。

* * 詳細については、Youtubeコントローラのマニュアルを参照してください。

3.7 RB Features

このフォームには、ラピッドバイクEVOまたはRACINGで使用出来る全ての追加機能の設定が含まれています。

* 車種やファームウェアのバージョンによって表示される機能が変わります。現車表示優先になります *

3.7.1 Calibrate

T.P.S.を設定します。ギアポジションセンサーの入力と出力の電圧です。

3.7.1.1 T.P.S. Calibration

T.P.S. アイドル状態とフルスロットル開度とソフトウェアに表示されている値に差がある場合は、キャリブレーション(校正)を行う必要があります。(詳しい説明は次のページに記載)



ステータス画面のTPSの値を確認、直接入力する事も可能です。その場合、Max,Minを入力してAPPLYします。

T.P.S. Calibration : TPS電圧値の変更・修正作業 (TPS電圧確認し、必要な場合に行ってください)
 T.P.S.を校正する。ワイヤーアクセル式バイクは、次のように進行します。(ワイヤーアクセルモデル)
 * ワイヤーがついていても違うモデルがあります。注意してください。

1. キーをONにしてエンジンをスタートします。(十分に暖気を行います)
2. **Calibrate Throttle** ボタンをクリックします。
3. スロットルを全閉から全開にして放します。T.P.SのMax(全開)とMin(アイドリング)の電圧値を取得する。
4. Calibrate Throttle ボタンをもう一度クリックしてプロセスを停止します。
5. 設定が終わったら画面右下の**"APPLYボタン"**をクリックして新しい設定を保存します。
 * 前ページ写真を参考に確認して下さい。

要注意 : フライワイヤ、ライドワイヤモデルの作業について

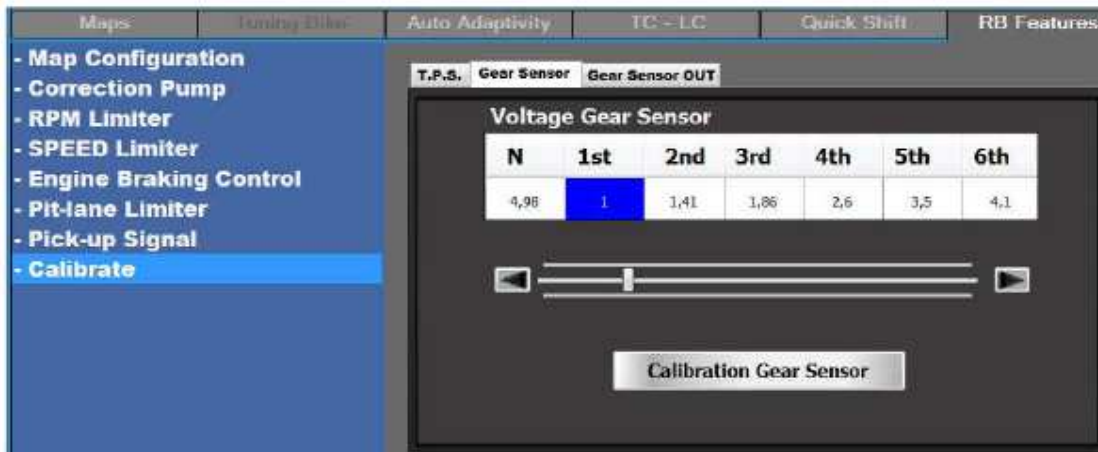
ニュートラルまたはスタンドにかけてある時、アクセルを開けてもライドワイヤがスロットルバタフライを完全に開けない、開かない為、ライドワイヤバイクのフルスロットル開度はダイノマシンを使用して、走行状態を再現しながらチェックする必要があります。(ステータス画面・TPS電圧値を参照)

T.P.S. calibration -ライドワイヤモデルのバイク
 アクセル全開で後輪が動いている状態、バイクをRPM-REVリミッターまであてる必要が有ります。
 全開で加速しなければならない為、ライドワイヤモデルはダイノマシンを使用して実行する必要があります。

**** 参考 ****

上記設定はステータス画面のTPSの値を確認、直接入力する事も可能です。
 その場合、Max,Minの値をステータス画面TPSの値を確認して入力、最後にAPPLYを押して下さい。

3.7.1.2 Gear Sensor Input Calibration

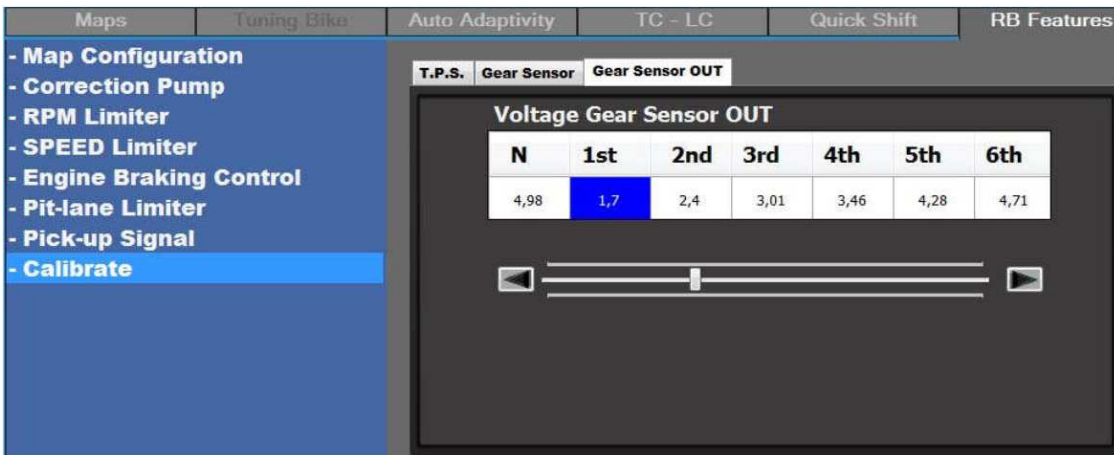


ギアポジションセンサーの校正は、実際のギアとPCに表示されるギアのズレ、同じでない場合に必要です。
 ギアポジションセンサーを調整するには、以下の手順に従います。

1. エンジンのキーをONにしてエンジンを始動します。
2. Calibration Gear Sensor(キャリブレーションギアセンサ)をクリックします。
3. 画面の指示に従いギアを入れて進めます。
4. 全てが完了したらボタンをもう一度クリックしてプロセスを停止します。
5. 最後に必ず"Apply"をクリックして、新しいパラメータを保存します。

この設定を行う場合、レーシングスタンド、センタースタンド、ダイノマシンを使用すると容易に行う事が出来ます。
 レーシングスタンドを使用する場合、倒さないようにしっかりと固定して作業を行ってください。

3.7.1.3 Gear Sensor Output Calibration (特定メーカーのメーターギア表示出力の補正設定)



警告:このキャリブレーションは、ギアがメーター表示上に正しく表示されず(ズレや間違った表示)、スピードリミッター機能が無効(disabled)な状態で、ギアセンサー入力キャリブレーション

(パラメーター3.7.1.2)が既に行われている場合にのみ必要です。(ズレなどない場合は必要はありません)

**** SUZUKIやAGUSTA、TRIUMPHなどに多くみられます。STDでもズレが生じている物を直す機能ではありません ****

ギヤポジションセンサの出力電圧をRapid Bike Evo / RacingモジュールからストックECU設定に変更することができます。次の手順に従います(スピードリミッター機能を無効にする必要があります)。

**** SUZUKIモデルなど1部車両のみ、その他のメーカーはギア表示は別経路から出力しています ****

1. イグニッションキーON、エンジンを始動します。
2. クラッチを引き、シフトロッドを動かして適切なギヤ比を挿入します。
3. カーソルを移動するテーブル内の対応する値を調整するか、矢印をクリックします。
4. [Apply]をクリックして新しい値を保存し、必要に応じてギアが処理されるまでプロセスを繰り返します。メーター内に正しく表示されます。

**** 注意 **: Gear Position Sensorの表示が間違っている場合 ****

RB Masterソフトウェアによる

ギアキャリブレーションがすでに完了していても、一部の車両は追加工の指示があります。

OEM ECUのGNDをバッテリーの負極に接続する必要があります。(指示書がある場合)

これにより、2つのモジュール(OEM ECUとRapid Bike)のGNDの違いによる不具合を回避できます。

3.7.2 Map Configuration

EVO/RACING本体に格納されているマップの一部のパラメータを変更できます。

それは2つのセクションに分かれています:

Rapid Bike configuration maps: 接続されているモジュールによっては、インジェクションマップの数を選択、マップスイッチ機能の有無等使用する場合は選択します。

本体・モデルによって使用出来る機能が変わりますのでご注意ください。

Options : モデルによって制御出来るシリンダーの数や用途に応じて管理するインジェクター状態設定。

- 例: 1 Single injection map = 1種類のMAPで全てをコントロールします。
 8injection's map = 1本ずつ合計8本のインジェクターに個々のMAPを展開します。
 2injection's map = 1番、2番の独立MAP制御 又は上下のインジェクターを個々にコントロール。
 6injection's map = 各ギアごとにMAPを展開する事が出来ます。

Size Map : 使用するマップの縦軸/横軸のセル数を用途に応じて設定・変更が可能です。

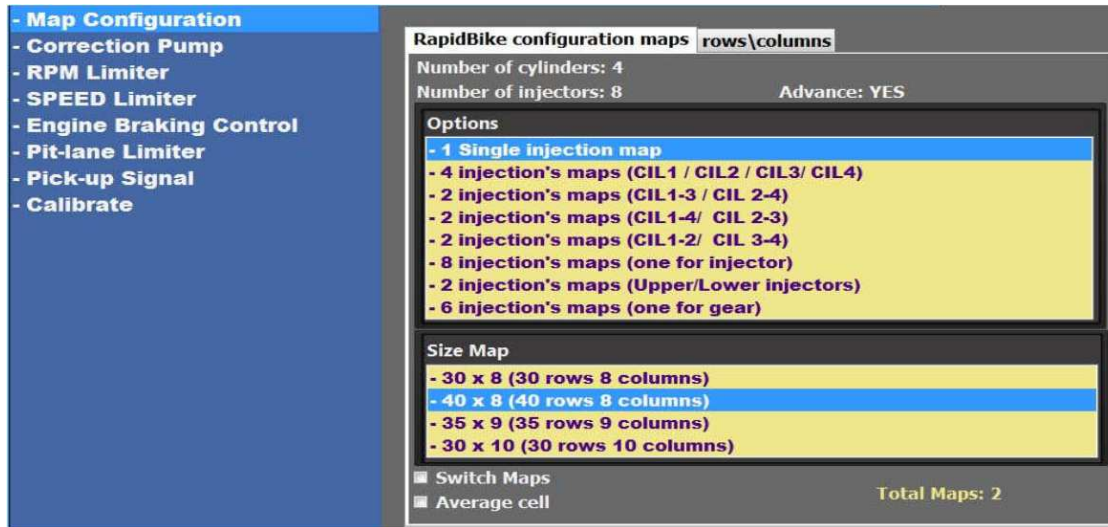
Switch Maps : このBOXにチェックを入れる事で2種類のMAP監視が切替で使用可能になります。

注意:この設定を行うと現在のMAPは消去され"0"MAPになるので使用する前に必ずMAPを保存します。

Average cell : 隣接するセルを移動する場合、移動する異なる値のセルとセルの平均値を自動で読み込んで移動する機能。(チェックBOXにチェックを入れている場合)

**** Mytuningbikeなどを使用する場合はチェックを外すようにする事でより正確な修正を行います。**

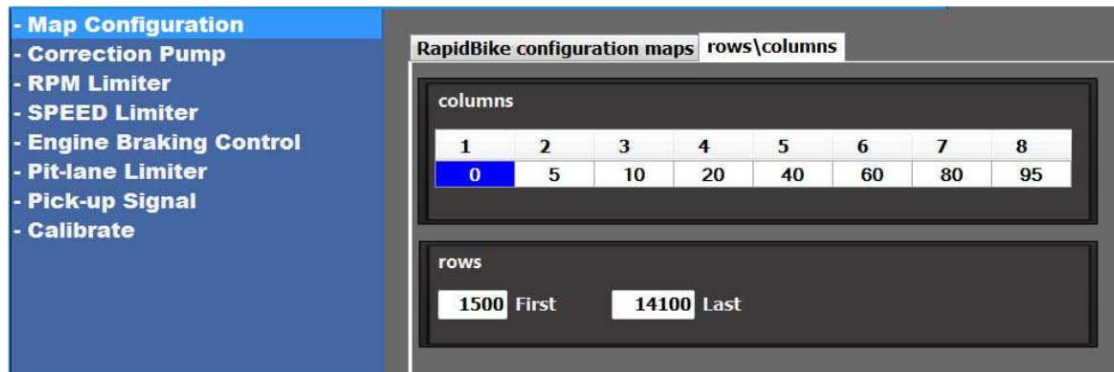
Rapid Bike configuration maps



Rows/columns : 各カラムとマップ回転数(RPM)の最大値、最小値の範囲を任意で変更できます。

* この最大回転数を増やしてもREVリミッターがUPする訳ではございません。

* * ECU書換などでREVリミッターを変更している場合はこの項目で変更するようにして下さい。



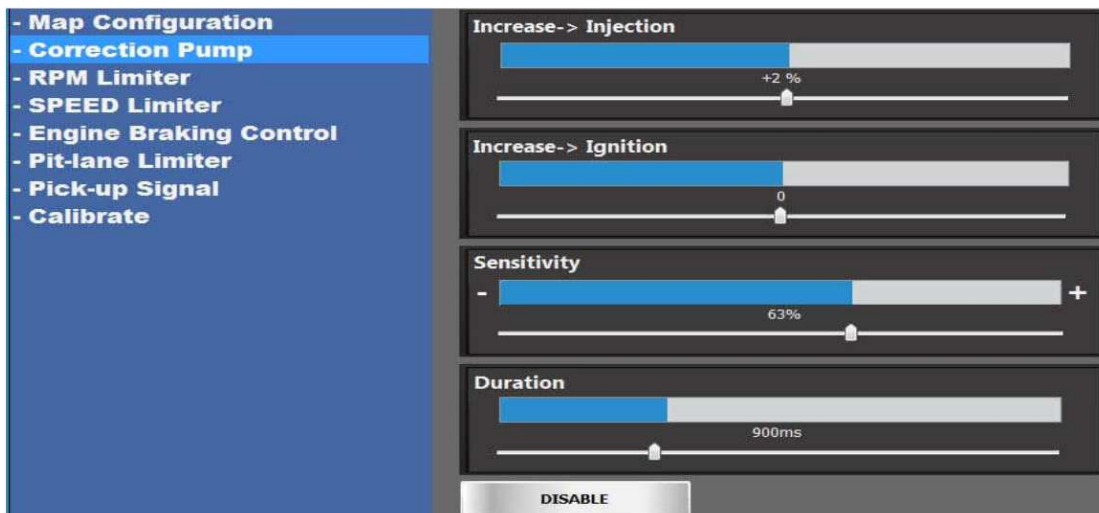
新しい設定を保存するには、Apply (適応) ボタンを必ずクリックします。

3.7.3 Correction Pump

この調整はスロットルオープニングプロセス (加速ポンプ的役割) の調整を行います。

すでに設定されているMAPIに対して加える%の設定になります。

* * 下記写真はRACING装着画面: EVOの場合はIncrease→Injectionの表示のみ



Increase Injection : アクセルのワイドオープニングに対して燃料の増減する量を設定します。

Increase Ignition : 上記のタイミングに付随して点火を進角/遅角させる事が可能。(RACINGのみ)

Sensitivity : スロットル開度速度に応じてインジェクションの反応感度を設定します。

低い値(1-49)は、アクセルをワイドオープンしても穏やかに反応します。数字を減らす方に穏やかになります。

高い値(51-100)はより機敏に反応して噴射を行います。数字を高くする方に機敏になります。

**** 但し機敏な方向に上げすぎると少々の電圧変化でもポンプが反応、かぶりやすくなる事があるので注意して下さい。**

Duration : 介入した時の燃料および/またはイグニッションを追加(または除去)する時間を設定します。

この機能の設定は、ライダーの感性や乗り物スタイル、走り方に大きく依存するため、誰もが同じ設定が理想的なものではありません。上げすぎても低すぎても適切でない場合があります。

ポンプの調整の反応確認を助けるため、ソフトウェアは、ディスプレイT.P.Sの近くに**"C.P."**という記号を表示します。ポンプが作動している時、PC画面に表示されます。



3.7.4 RPM Limiter (* 一般ユーザーソフトではREVLimiter機能は表示されません)

ラピッドバイクがストックECUのRPM-REVリミッターに追加する回転数を設定する事ができます。この機能はラピッドバイクファームウェアとECUの状態に厳密に関連している為、適合モデルであっても、すべての適合モデルで使用出来るわけではありません。

下記条件のモデルはこの機能を停止(画面にEnabledが表示されている状態)して下さい。

間違えて使用した場合、STD-REVよりも低い回転数でリミッターが作動する場合があります。

- ・基本的には海外輸出モデル専用の機能になります。(適合表に記載があるか確認して下さい)
- ・国内仕様と海外仕様でREVリミッターが違うモデル
- ・180kmリミッターで制限が入るモデル
- ・ディーラーなどでECUを書換えてREVがSTDよりもUPしているECUを使用している場合
- ・レース用ECUと併用使用している場合
- ・JAPAN仕様車のREVリミッターには使用不可

出荷時はこの機能はすべて停止している状態で出荷しています。(ディーラー書換え時、注意して下さい)

詳しくはRAPIDBIKE-JAPAN、ラピッドバイクディーラーまでご相談ください。

*** ラピッドバイクレーシングのスイッチマップを使用して、MAP毎に異なるREVリミッタ値を設定することができます。**

マップスイッチのポジション1を選択、本体からGetmap、REVリミッタの希望の値を設定し、Applyをクリックします。次に、スイッチポジション2の位置に変更し、上記と同じ操作を行って下さい。

上記設定後、必ずダイノマシンを使用して確認作業を行って下さい。

3.7.5 Pick-up signal

クランクシャフトセンサーの信号(ピックアップシグナル)が、強すぎたり弱すぎたりする場合に感度の調整を行って変更する事が出来ます。

事例が起きうる場合に考えられる最も一般的な症状は下記の2つに要約される事が多く見受けられます。

- * 始動性が著しく悪い状態のエンジン又は車両(車両による物もあります)
- * エンジンが始動している時に途切れる場合がある(ストックのTPSなどがズレている場合もあります)

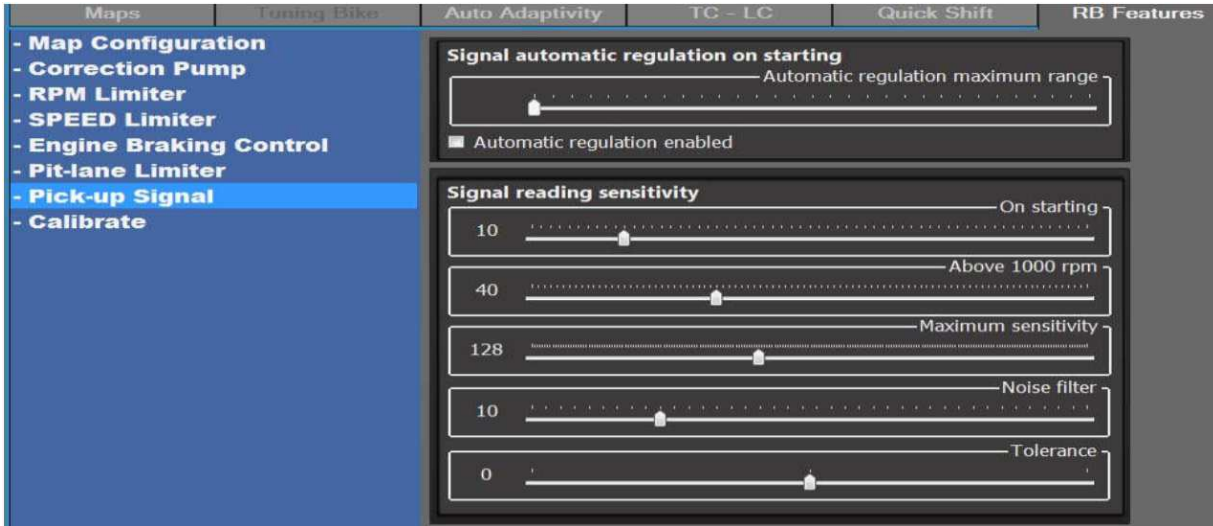
3.7.5 Pick-up signal

(通常は変更する必要はありません)

個体差によるクランクシャフトセンサーの信号(ピックアップシグナル)が、強すぎたり弱すぎたりする場合、エアギャップクリアランスのバラつき、モデルによって感度の調整指示がある場合に変更する事が出来ます。

事例が起きうる場合に考えられる最も一般的な症状は下記の2つに要約される事が多く見受けられます。

- * 始動性が著しく悪い状態のエンジン又は車両 (車両個体差による物も多くあります)
- * エンジンが始動している時に途切れる場合がある(ストックのTPSなどがズレている場合もあります)



クランクシャフトセンサ信号の読み取り感度の設定は次のとおりです。

メーカーの指示がない場合、絶対に変更しないで下さい。

Signal automatic regulation on starting

エンジン始動中のレーシングモジュールは、クランクシャフトセンサーの信号読み取りの感度を自動的に調整することができます。

Automatic regulation maximum range

レーシングモジュールが読み取り感度を増減できる最大範囲を設定します。

Automatic regulation enabled

感度の自動調整をアクティブにします。ディセーブルの場合、エンジン始動中に使用される値は、始動を設定するための値になります

Signal reading sensitivity : クランクシャフトセンサ信号読取感度の設定。

On starting : エンジンが始動したときに感度を読み取る。値は0(最高感度)から60(最低感度)に移動します。

Above 1000 rpm : エンジンが1000 rpmを超えときの読み取り感度。

Maximum sensitivity : モジュールが到達可能な感度の最高値(通常8000 rpm後)。

Noise filter : クランクシャフトセンサのノイズのフィルタの設定。

Tolerance : クランクシャフトホイールの穴の寸法(度単位)を変更します **(BMW S1000RRのみに使用)**。

設定を調整・変更したら、“Apply”(適用)ボタンをクリックしてモジュールに保存します。

****重要・これらすべての設定のデフォルトパラメータは、開発中に適切に機能するように設定されています・重要****
パラメータの変更は、ユニット設置後、エンジン速度信号に関連する問題、指示がある場合にのみ必要です。

3.7.6 Pit-lane limiter(レーシングのみ)

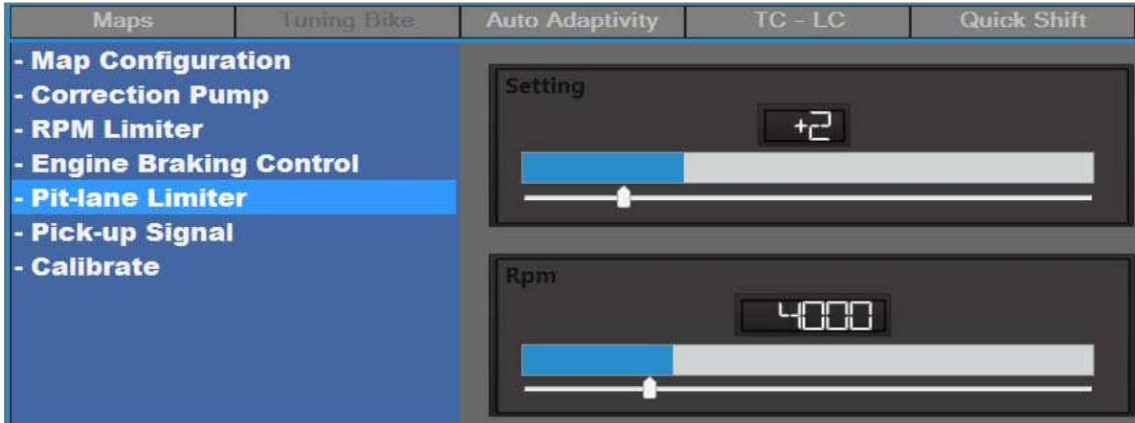
この機能は、スイッチで起動できるストックリミットよりも低い回転リミッターを設定するために使用します。主な目的は、サーキットやレースに応じたピットレーン内のスピード規制に対応する為に使用します。車速度信号入力ではありません。この機能を設定する正しい方法は、あらかじめダイノマシンを使用する、又はピットレーンでスピードを確認しながら使用するギア、回転数を確認して設定を行います。

* 予めピットレーンに入るギアを決めておき、回転数を確認します。

** モデルによっては各ギア毎に回転数を設定出来る物もあります。(ギアポジション介入モデル)

3.7.6 Pit-lane limiter(レーシングのみ)

この機能は、スイッチで起動できるストックリミットよりも低い回転リミッターを設定するために使用します。主な目的は、サーキットやレースに応じたピットレーン内のスピード規制に対応する為に使用します。**車速度信号入力ではありません。**この機能を設定する正しい方法は、あらかじめダイノマシンを使用する、又はピットレーンでスピードを確認しながら使用するギア、回転数を確認して設定を行います。
 * 予めピットレーンに入るギアを決めておき、回転数を確認します。
 * * モデルによっては各ギア毎に回転数を設定出来る物もあります。(ギアポジション介入モデル)



ピットレーンリミッターは、専用のスイッチKITを使用してラピッドバイクレーシングのみで使用できます。
 専用ピットレーン/シフター切替スイッチKIT : F27- SW-PIT2(シフターコネクター兼用電圧降下タイプ)
 Gear Position Sensor介入が無いモデル(上記表示)の場合、カーソルを使用して回転数を設定します。



Gear Position Sensor対応モデル(上記表示)は、カーソルを使用して各ギア比の回転数を設定します。

Setting : ピットレーンリミットの”間引き”(カットタイミング)はさまざまなタイミングを選択できます。値が高い(大きい)ほど、間引きタイミング(カット)が軽くなります。
 ピットレーンスイッチ装着後、カットタイミングを確認する事をお勧めします。

新しい設定を保存するには、”Apply”(適用)ボタンをクリックします。

3.7.7 Speed Limiter (一部の限られたモデルのみ利用可能) * MASTER-FREEでは使用不可・適合表掲載モデルのみ *

ギアポジションセンサー搭載・接続されているモデルのみ速度制限を解除する事ができます。通常、速度制限は5速または6速で有効です。この機能は、ギアポジションセンサーからの信号を変更することによってこの制限を取り除きます。**(国内仕様の180kmリミッターは不可)**

*** 一部のモデルではレースモードを引き出す為、”N”ギア表示になる場合があります(レースモード指定モデル)**

*** 使用可能な海外モデルECU-300kmリミッターなど海外モデルの最高速リミッターカット機能 * EVO、RACING共に使用可能な機能です。**

* スピードリミッター * (逆輸入モデル、海外仕様モデルECUのみ使用可能)

3.10 Backup Evo and Racing modules

EVO / RACING本体データを完全にバックアップして保存ファイルを作成することができます。
このバックアップは、モジュールのすべてのマップ、すべての設定を含むファイルをPCに作成・保存します。
バックアップは以下に関連しています：

- ・ モジュールのシリアル番号
- ・ モジュールのプログラミング(バイクモデル)。

別のモジュールにロードすることも、別のオートバイ用にプログラムされた同じモジュールにロードすることもできません。

Management RBを開いてBackup RB 選択。

自分でわかりやすいフォルダーを事前に用意して保存して下さい。

以前にモジュールに保存したバックアップファイルをロードするには、同じメニューでRestore backup RBをクリックします。

作業中、MAP呼び出しなど行った場合に、常にMAPを保存するか確認画面が呼び出します。
(例えば、ソフトウェアと共に提供される他のMAPをロードする)場合、バックアップも提案される。
必用に応じて保存を行うようにして下さい。

Enabled(イネーブル) = 有効 / Disabled(ディセーブル) = 無効

3.7.8 Engine braking control (エンジnbrレーキコントロール)

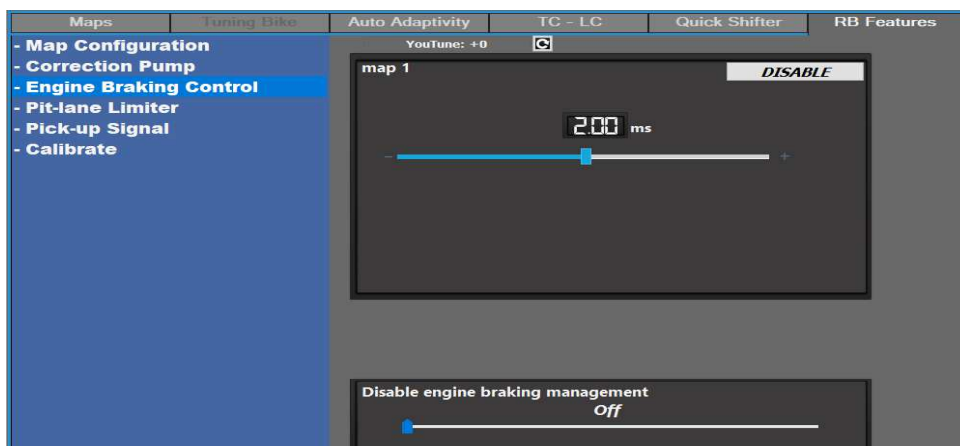
警告:ラピッドバイクEVOはYOUTUNEコントローラ装着時のみで動作・使用可能。
ラピッドバイクレーシングは標準装備機能なのでYOUTUNEを装着しなくても使用可能です。

**** 注意 **** 装着されているECUがTPSO%で燃料カットを行うモデルで機能します。(殆どのモデルが適合)
また、ECUの書き換え等で”エンジンブレーキ適正化”と言われているECUでは機能しない場合があります。
確認するにはダイノマシンに乗せステータス画面のインジェクター噴射モニターで確認する事が出来ます。

ラピッドバイクEVO/レーシングは、減速中のインジェクション噴射を管理することによって
エンジンブレーキを調整することができます(スロットルが閉じている、TPSO%—全閉状態)。

ほとんどのバイクは、エンジン回転数が5000~3000回転未満になるまで、
OEM ECUはインジェクタへの燃料の噴射を完全に遮断(休止)します。(1部モデルを除く)。

エンジンブレーキ制御が有効になっていると、ラピッドバイクがインジェクタに一定量の燃料コントロールを
行ってエンジンブレーキの制動力を低下(向上)させます。



Enabled(イネーブル) = 有効 / Disabled(ディセーブル) = 無効ボタンをクリックして、

機能を有効または無効にします。これを有効にすると、ファームウェアに格納されているデフォルト値(通常はアイドル時に噴射されているのと同じ量の燃料)で設定されます。

Enabled(イネーブル) = 有効 / Disabled(ディセーブル) = 無効
画面表示と逆の状態が機能している事に注意して下さい。

カーソルを動かすことで、カットオフ中にエンジンの制動力を増加(+)または減少(-)することができます。

初期設定されているデフォルト値は0%で表され、すでにエンジンブレーキを軽減噴射しています。

ギヤポジションセンサ対応モデルは、各ギヤ比に対して異なるエンジンブレーキ設定することができます。

Disable engine braking management : エンブレ介入噴射の停止する回転数を設定します。

(OEM ECUがインジェクタを再び噴射にする回転数より高く設定されている場合のみ機能します)

設定後、インジェクタに燃料を供給するためにECUが再び始動するとすぐに機能が停止します。

ステータス画面を開き、ダイノマシンに乗せた状態で噴射状態をモニタリングして確認する事が出来ます。

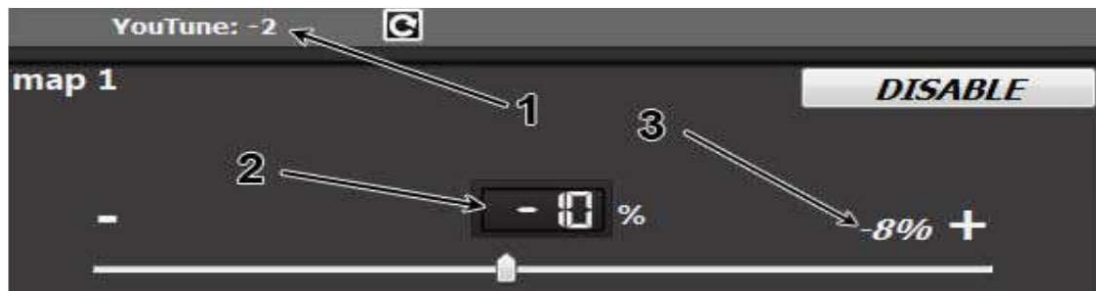
新しい設定を保存するには、"Apply"(適用)ボタンをクリックします。

3.7.8.1 Management with Youtube controller

YOUTUNEコントローラは、ソフトウェアの設定を変更することができます。

それが各ギヤ比に対して一律または異なっても、+20%から-19%の範囲内で変更可能です。ギヤ比ごとに異なる設定で動作する時、YOUTUNEの値がそれぞれに追加または削除されます。

PC表示は、Youtubeコントローラ(1)の設定値、ソフトウェア設定(3) + YOUTUNE = 合計結果(2)を示します。



ボタンをクリックすると、Youtubeコントローラで設定された値に従って情報が更新されます。

詳細については、YOUTUNEコントローラのマニュアルを参照してください。

3.8 Status

このフォームでは、ラピッドバイクEVO / ラピッドバイクレーシングに関するシステムのデューティサイクル、噴射タイミングなどいくつかの重要なパラメータを確認することができます。



以下を確認して診断や情報を確認することができます。重要な情報が読み取る事が可能です。

エンジンの回転数 - RPM (r / min 、milliseconds - MS - ミリ秒)

- 各インジェクターのデューティサイクルと噴射時間(ms)

正常な状態-グリーンバー表示されます。エラーなどある場合はレッドバーが表示されます。

時々、ノイズ信号でレッドバー表示されることがありますがエラーではありません。エラーの場合常時レッドになります

- 各インジェクタの調整量(変更したMAPの値、%)
- 各センサの電圧

- o T.P.S. 任意でTPSボルテージを変更する場合に現状の電圧の推移を見る事が可能です。
- o Switch Gear シフターキット(装着時)のON/OFF確認やピットレーン電圧の確認が可能。
- o Switch Maps MAPスイッチを装着している時に切替電圧の確認が可能。
- o O2 Sensor 1 Input/Output STD-O2センサーの状態。
- o O2 Sensor 2 or Gear Position Sensor Input/Output. STD-O2センサー2の状態またはギアポジション電圧の確認。

Feeding Voltage

- o Battery バッテリー電圧の状態が確認できます。(アース不良や電源が供給の確認) IGキーONで12Vの電源が入らない場合はエンジンが始動しない場合があります。
- o 5v USB電源供給の状態。

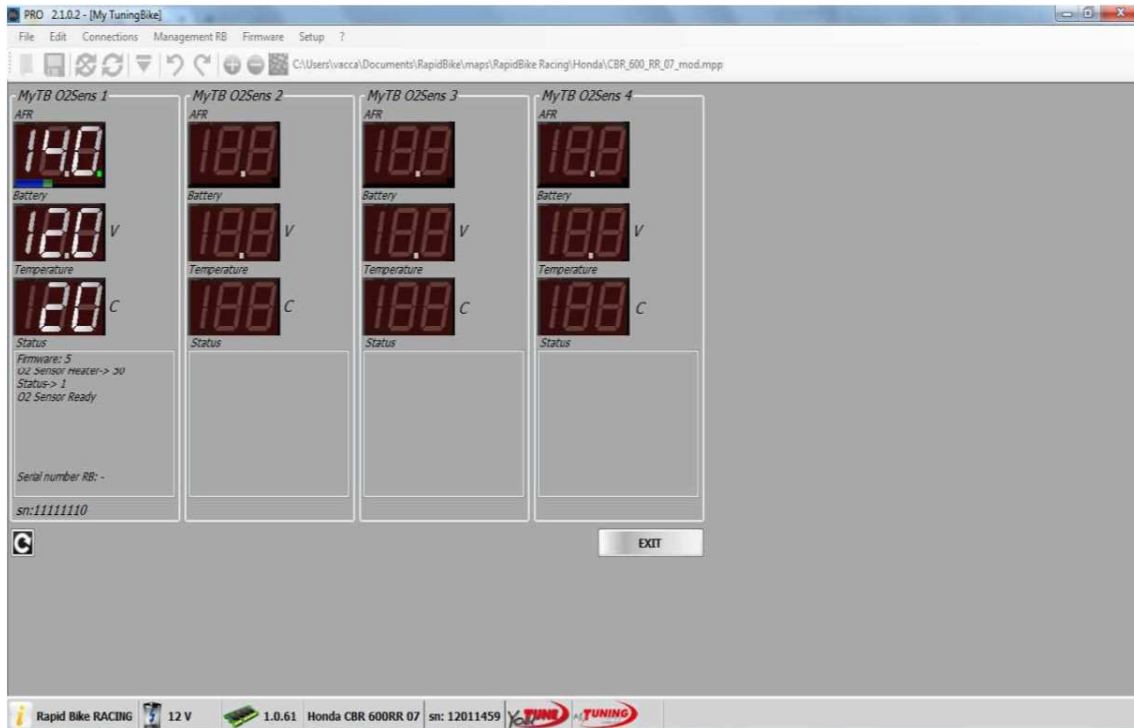
Operating temperature

- o CPU ラピッドバイク内部のCPUの温度状態
- o Mainboard ラピッドバイク内部のメインボードの温度状態

History of the module

- o マップの最後のロック解除を行ったUSB dongleのコード
- o ロック解除のカウンター
- o プログラミングのカウンタ (オートバイのモデルの変更)
- o これまでに設定された最大RPM-REVリミッター値
- o エンジンブレーキコントロールのカウンタ調整
- o ピットレーンリミッター設定のカウンター調整
- o CPU最高温度記録 = 110度以上の記録がある場合は取付位置変更を検討する。
- o マザーボード最高温度記録 = 上記参考にする。

My Tuning Bikeボタンをクリックすると、次のようなステータスウィンドウが開きます。



A.F.R. 空燃比表示

Feeding voltage MyTuningBikeの電源・電圧の状態

Device temperature 本体の温度

永久読み込み : IDナンバーのラピッドバイク本体IDナンバー(同じID番号の本体以外では使用出来ません)

MTBは1度読み込んだIDナンバーのEVO/RACING本体以外での使用は出来ません。

Status:

- o Firmware version ファームウェアバージョン
- o O2 sensor heater: O2センサーのヒーター状況
 - Between 40 and 50 for sensor LSU 4.2 (C27SONDA) 旧MTB用O2センサー規格(コネクタ大)
 - Between 100 and 150 for sensor LSU 4.9 (C27SONDA2) 新MTB用O2センサー規格(コネクタ小)
- o Status (0 = device off, 1 = device on and no errors, n>1 = errors)
- o O2 sensor state
- o MyTuningBikeのIDナンバー

終了する場合は、「EXIT」ボタンを押して終了してください。

4.1 Technical support:

イタリアDIM SPORT本社サポートデスク

Phone number: +39 0142 955021 – from Monday to Friday from 09:00 am until 01:00 (CET) pm and from 02:00 pm until 06:00 pm (CET)

– E-mail address: support.rapidbike@dimSPORT.it

日本国内 RAPIDBIKE-JAPAN (JAM-PSD)サポートデスク

電話 048-446-7982 AM10:00-PM6:00 火曜日・イベント日休業

サポート support@rapidbike-japan.com 2021年1月より開通予定

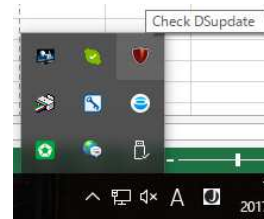
4.2 Upgrades:

ユーティリティによるソフトウェアとファームウェアの

自動アップグレードDSupdateをチェックします。

デスクトップ右下のメニューを開くとCheckDSupdateボタンが確認できます。

右クリックしてUPデートを手動で行う事もできます。

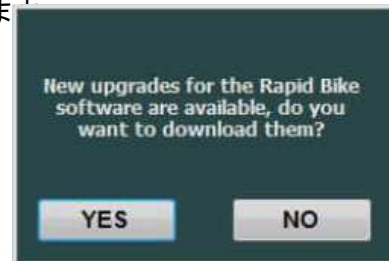


ネット環境が接続されている場合、下記の画面が自動でUPデートを呼び出します。

このユーティリティは、新しいアップグレードがないかどうかをチェックし、

何らかのダウンロードが可能な場合(インターネット接続が必要)、

ポップアップウィンドウでアドバイスします。



全てYESを押すようにして下さい。

4.3 Website reserved area:

ウェブサイト <https://www.dimSPORT.it/en/> ではreserved areaにユーザー登録することができます。

本社WEBサイトから個別に本登録を完了して下さい。
完了すると各種マニュアルや情報入手する事が可能になります。
ソフトウェアなどもここから入手可能です。

* 本登録未完了でもソフトウェアは使用する事は可能です。

ホームページには、**reserved area**へのリンクがあります。

* WEBサイトの一番下のメニューにあります。

画像に表示されているバナーをクリックします。



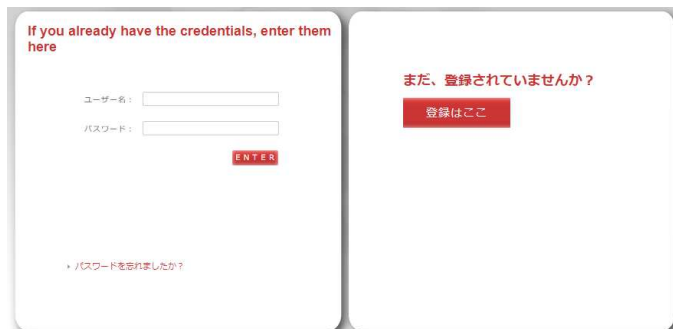
次のページで” RAPIDBIKE ”ロゴを選択します



次のページで” RAPIDBIKE ”ロゴを選択します



下記画面が開いたら右上の”Lingua”を開いて日本語を選択してください。



初めてのログイン時、
「ここに登録」をクリックします。



次の登録理由を選択してください。

「RapidBike・購入オーナー」を選択します。



次のウィンドウで、フォームに有効な電子メールアドレスと、

全ての入力完了したら右側の2か所のチェックを入れて
”登録します”をクリックしてください。

これで登録は完了します。

その後、自動返信でアクセスの為に必要なパスワードを含む自動電子メールが送信されます。

*もしも返信メールが無い場合、別のメールアドレスを試してみるか、お問合せください。

フリーメールアドレスなど一部のアドレスは使用できない場合があります

reserved areaには、取付けハンドブックの観覧、ダウンロード、各種マニュアルのダウンロードが可能です。必ず登録するようにして下さい。

一般的なトラブルシューティング **解決の参考にして下さい**

ハーネスの取付編

Q,取り付けるとハーネスの長さが合わない

A,ハーネスの取付け、取り回しに特定の指定が無い場合、曲がりや挟み込みが無いようハーネスを確認して取り付けて下さい。

Q,RAPIDBIKE本体の場所や固定方法がわからない。

A,防水カブラー、防水本体の為、場所は選びません。ロックタイやボルトナット、付属のベルクロで固定して下さい。また、モジュール本体裏のシリアルラベルを剥がしてからベルクロ(マジックテープ)を張って固定して下さい。

Q,RAPID BIKEのハーネスのA/Fセンサーカブラーが余っていますが？

A,同じモデルでも、年式や仕様地の違いにより装備が異なる車種があります。現車確認を必ず行って下さい。日本モデルでは最初から無いモデル(年式別)も多くあります。その際は接続する必要は有りません。また、他機種と兼用でハーネスを使用するモデルもありますので必ず現車確認を行って取付して下さい。

Q,複数のインジェクター、O2センサーがあるので順番があるのですか？

A,オートバイに跨って左から右に向かって1番～になります。O2センサーも同様になります。

USB接続時

Q,何度アクセスしても上手くつながらない時があります。また、データを書き損じます。

A,RAPID BIKE-USBケーブルはUSBヘッドにマイクロチップが入っています。故障の可能性があり。又は配線が断線していないか細い線とコネクターから抜けかないか確認して下さい。

Q,USBケーブルを差し込んでもSOFTが認識しません。

A,USBラピッドバイクへ接続ボタンを押して発信して下さい。上手くいかない場合は別のUSBポートで試して下さい。または、PCの更新などでドライバーが認識できなくなっている場合があります。DimsportDriverを再度インストールします。サポートデスクからDimsportDriverファイルを要求して頂くか、本社 ["http://reserved.dimsport.com/kb/article.aspx?id=1105"](http://reserved.dimsport.com/kb/article.aspx?id=1105) ページから同じファイルのZipファイルをダウンロードして更新して下さい。

Q,USBケーブルが短くてPCまで届きません。

A,別売の延長ケーブルを使用して延長して下さい。(F27ADCOM)2Mの延長ケーブルです。詳しくはお問い合わせください。

Q,直接RAPIDBIKE本体のみとPCを接続したい場合は？

A,別売のアダプターを使用してUSBケーブル接続できます。(F27ADPROG-ER)RB本体に接続します。

BLUE BIKE接続時 (オプション販売・Bluetoothユニット)

Q,BLUE BIKEでうまくソフトが繋がりにません。又は見つかりません。

A,ポートの設定がうまくいっていない場合があります。Bluetoothポートを確認して任意設定して下さい。また、多くはPC側のBluetoothの設定がオープンになっていない場合があります。再度、確認してペアリングを行って下さい。携帯アプリと接続する場合、BLUEBIKE3のみアンドロイド、iOSの使用が可能です。(詳しくはBLUEBIKEマニュアル参照)

Q,USBではうまく接続出来ていたのですが、BLUEBIKEにしてから繋がりにません。

A,再度、PCのBluetooth設定を変えても駄目な場合、MASTER-SOFTのBLUEBIKE検索設定を行って下さい。

Q,BLUEBIKEがまるで見当たらない、初期の設定でも見つからない。

A,本体側の電源がうまく取れていない場合があります。IGキーONで12Vが安定供給できるところに接続を行って下さい。IGキーOFFにするとBLUEBIKEもOFFになりますので接続が遮断されます。

ダイノマシンなどで使用したい場合はバッテリーから直接12Vを接続することも可能ですが

BLUE BIKEユニットに取り付けしたまま、数日始動しないとバッテリー上がりを起こしますのでご注意下さい。

Q,BLUEBIKEで接続していると回転数表示などが遅れて見える時があります。故障ですか？

A,Bluetoothの場合、若干のタイムラグが起こる場合があります。故障ではありません

ラピッドバイク装着完了 ・ RAPID BIKE MASTER PROソフト 接続編

Q,IGキーONで電磁ポンプが動かない、ポンプは動いているがエンジンがかからない？初期不良ですか？

**** 上記の疑いがある場合は必ずPCを接続してIGキーONで状況を把握してから作業を行って下さい****

A,非常に多い事例でアース不良による未通電症状が考えられます。ラピッドバイクのアースを確実にして下さい。

A,IGキーONで12Vが取れていない場合があります(メーカーによってリアブレーキ電源の配線が左右逆モデル) 付属のリアブレーキ電源クロスケーブル(KTMはインジェクション)を繋いで接続してください。

A,海外モデルなどに多い、O2センサーと電磁ポンプコネクタに間違えて接続を行っている場合があります。非常に多いエラー作業です。故障する場合がありますので注意が必要です。

Q,設定を行っていたら見たことの無い表示が現れて動かせなくなったのですが？

A, 1度、ソフトウェアを終了して再度、MASTERソフトを起動して確認してみてください。

USBの接触不良などで書き損じなど再起動しても治らない場合は購入店、又は当社まで返送して頂く必要が有ります。

Q,書込みを行うと、設定した数字がおかしく表示されています。アクセル開度もバラバラになりますか？

A,ファームウェアUPデートエラーの可能性が有ります。正常だったMAPデーターを再度インストールします。

その後、再度UPデートを試みて下さい。

Q,MAPを変更して、Getmapで読み込みしたのですが変更されていませんか？

A,MAPなど作業変更を行った場合は必ず”APPLY”ボタンを押して下さい。これで実行されます。

また、変更になっているか確認する場合は、再度”GetMap”を押して本体のデーターを呼び出して下さい。

Q,読み込みをすると、まれにデーターがおかしくなっている時が有ります。たまにエンジンが止まります。

A, 本体を断熱処理して下さい。(後方排気車両)マフラーの熱などでエラーを起こしている可能性があります。

ステータス画面から本体などの温度管理の情報ログが有りますので確認して対策を行って下さい。

Q,変更しなくていい所を、試しに変更したらエラー表示が出て固まってしまったのですが？

A, データー破損の恐れが有ります。購入店、又は当社まで返送して頂く必要が有ります。

当社にてログデーターからエラーを読みだしてデーター修正などが必要になる場合がありますのでご注意ください。

Q,車両に他メーカーの電装部品をつけている時に調子が悪くなります。又は不安定になります。

A, 電圧不足が考えられます。装飾品部品でしょうか？電圧不足は故障の原因になります。取り外す事をお勧めします。

または、粗悪なりチウムイオンバッテリーを使用している場合、不安定になりエンジン始動が困難になる場合があります。

セルモータースタート時に高電圧を必要とする為、電圧不足気味の場合、エンジン始動が困難になる場合があります。

Q,アクセル開度とTPSが合っていません、またはTPSの%が動きません。又は常時100%になっていますが故障ですか？

A,ワイヤーアクセルの場合、TPSの接続ミスが疑われます。再度、TPS接続の配線確認を行って下さい。

または、個体差によるTPSの電圧設定にずれがあるかもしれません、TPS設定項目を参照して再度、設定を正しく行って下さい。

A,ワイワイヤモデルの場合、エンジン始動しないときはTPS電圧が正しく表示されません。または、動きません。

エンジンを始動してから確認を行って下さい。また、いくつかのモデルは”N”ギア時はアクセルが開かないようになっています。

また、REVリミッター手前等でTPSの開度が閉じていくモデルもあります。これは車体側ECUのプログラムになります。

Q,SUZUKIモデルですがギア表示が低回転などで違うギア表示される時が有ります。故障ですか？

A,SUZUKIモデルは非常に個体差が出やすく、アース不測の疑いがお送ります。*特にGSXRシリーズなど

別紙の説明に従って追加でアース線を増やすようにして下さい。また、ギア表示の設定を再度、行うようにして下さい。

Q,車体のSTD-O2センサーを取り外してラピッドバイクは接続してキャンセルしています。正常に機能できますか？

A,きちんと接続を行って下さい。ラピッドバイクはSTD-O2センサーを接続し、本体内部でSTD-O2をコントロールしています。

その為、むりにSTD-O2センサーを外す必要がなく、エラーランプ、クローズドループを制御して機能しています。

Q,エンジン始動後アイドル回転数を変更できますか？

A,アイドル回転数をコントロールする機能はありません。アイドル回転数のMAPセルの値を変更してみてください。また、モデルによってアイドルスクリューが装着されているモデルがあります。

Q,インジェクションMAPで+1程度上げるとどれくらい変わりますか？または-1程度ではどうなりますか？

A,セッティングの基本となる動きを確認します。まずはアイドル回転状態で+ボタンを複数回押してみてもSendMapを行い、アイドル回転数がどのように変化しましたか？または逆に-ボタンを複数回押してSendMapしてみた場合もどうなりますか？A/F計測器を使用して確認を行いながら+-ボタンを押した場合の変動率を確認します。A/F値を確認しておくことで、アイドル回転数であまり+増量すると被ってエンジンが止まりますので注意してください。

Q,配線が間違っていないと思いますがエンジンがかかりません。確認する方法はありますか？

A,クランクシャフトセンサーコネクタの割り込みをやめて、STDコネクタ接続に戻してください。これでエンジンがかからない場合、電源関係のミスが考えられます。また、かかる場合は配線が間違っているかもしか間違いは無く、12Vも起動しているがかからない、クランクシャフト配線を繋がないと問題ない場合はサポートまでご連絡く

Q,ラピッドバイク機能”AutoAdaptive”は出荷時にOFFしてあるのは？

A,STD-O2センサーを使用した適応機能”AutoAdaptive”。ノーマルのナローバンドはA/F値表示を行いません。

*** * 各メーカーの使用するSTD-O2センサーのλ(ラムダ)設定値に規則性が無い為 * ***

その為、A/F計を装着しながら補正值=A/F値を確認して使用する必要があります。

二次エアキャンセルやマフラーによって設定値が変わるため様子を見て使用する必要があります。

確実な確認、補正をリアルタイムで行う場合はオプションパーツMyTuningBike(ワイドバンド)をお勧めします。

Q,PC上のMAPトレース、最高回転数が車体側のタコメーターとズレていますが正常ですか？

A,ラピッドバイクはクランクシャフト、インジェクターから信号を読みこんで処理していますので故障ではありません。

また、ラピッドバイク本体の処理速度はSTD-ECUを上回る速さで処理を行っています。

PCの能力等でも大きく変わります。画面はケーブルを通す為、表示は遅れていることがあります。

Q,ラピッドバイクでREVリミッターを下げられると聞きました。または慣らしをするので、可能ですか？

A,インジェクションのREVリミッターはバイワイヤ制御で行う場合と燃料噴射遮断で行う場合があります。

EVO/RACINGを使用した場合、REVリミットをかけた回転数のインジェクションMAPを-100(遮断)を入力してください。

*必ずダイノマシン上で確認しながら行って下さい。タコメーターとズレている場合はタコメーターを優先して合わせて下さ

Q,リターダーの無いダイノマシンで計測を行いました。A/F値のセッティングは正しいですか？

A,残念ながら適正ではありません。必ず、リターダー付きダイノマシン設置店でリターダーをかけた状態で

セッティングを行ってもらうようにして下さい。インジェクションモデルはキャブレター車と違いセッティングに負荷を必要とし

その為、無負荷のダイノマシンでは馬力の出力、A/F値、セッティングMAPも変わってきます。

その場合、オプションパーツのMyTuningBikeを使用して実走を多く取り入れる事をお勧めします。

Q,似たようなエンジンを搭載しているモデルに違うモデルのラピッドバイクを装着しても大丈夫ですか？

A,絶対に装着、使用しないでください。

クランクシャフトセンサーなどから信号を読み込みますので不定期なエンジンストールなどを引き起こす場合があります。

また、STD-O2センサーの基本データが合わないためエラーが点灯したりなど予測不能な症状が起こる場合があります。

PCを接続して適合車種が違うモデルが表示されている場合、当社、又はRAPIDBIKE-PROディーラー店まで
お問合せ下さい。勿論、中古購入品の場合も再登録(有料)サービスを受けるようにして下さい。

Q,1速、低回転時だけシフトショックが大きく感じます。その他のギアは非常に良いです。

A,1速はギア比の問題でシフトショックを大きく感じるモデルがあります。その場合、Cut-off時間を増やすとよいのですが高回転などで遅れが出る場合があります。また、ステップやセンサー取付角度などでも変わる場合があります。再度、取付方法の確認やCut-off時間の微調整を行ってみてください。

Q,走行中に不定期に燃料カットされたような感じがあります。また、段差などでも起こる場合があります。

A,シフターセンサー感度(Sensitivity)の設定が過敏すぎるかもしれません。ラピッドバイクのシフターセンサーはSTD車両に多いテンション式のスイッチと違い、金属の歪みを読み込むタイプ”歪みセンサー”を採用しています。その為、感度を上げ(設定値の数字を減らす)過ぎると指で弾いた程度でも反応します。その為ステップの”揺れ・ガタ”を拾う場合があります。その場合、感度を下げる(設定値の値を増やす)事をお勧めします。モデルによって感度は大きく変わります。シフターの反応が速すぎてもギアは入らないので注意してください。参考:35~45から様子を見ることをお勧めします。

Q,上記作業を行いました。しかし、ある程度決まった回転数で燃料カットのような事が起こります。

A,車両によって電気ノイズを多く発生しやすいモデルがあります。(YAMAHA,TRIUMPH,UCATIなど)その場合、シフターにノイズフィルターをかけることで改善されます。シフター設定の画面から”Filter”の値を上げることでノイズフィルターを強くして誤作動を抑える事が出来ます。標準は”0”、変更する場合、4~8程度で様子を見てください。
*** *ブリッパ―キットにもフィルター機能はありますが通常は表示されておりません。ブリッパ―マニュアル参照、又はお問い合わせ下さい。**

Q,ブリッパ―が逆シフトにしたらうまく動かなくなりました。シフターを逆シフトにしたら動かなくなりました。

A,シフター設定画面で変更を行うようにして下さい。Push(押す)またはPull(引く)の切り替えが可能です。シフターマニュアル、シフター設定ページを確認して下さい。
*** *安全の為、ダイノマシン上で行う事をお勧めします。**

Q,ブリッパ―キットの設定を変えて元に戻せなくなりました。どうしたらよいですか？

A,作業前に必ずブリッパ―のMAPデータを保存しておいてください。ラピッドバイクブリッパ―キットはブリッパ―MAPのみを単独で保存する事が可能です。使用用途、サーキットなどに合わせて入れ替える事が可能です。デフォルト状態に戻すことも可能です。(ブリッパ―キットマニュアル参照)

Q, 転倒してしまいシフターが反応しなくなりました。また、最近シフターセンサーの反応が悪いような気がします。

A, シフターセンサーは消耗品になります。また、強い衝撃などで故障する場合があります。現在の新型シフターやブリッパ―キットの場合、センサーのみ交換が可能になりました。交換前にPCを接続してシフター設定画面でステータスバーが正常に作動するか確認して判断してください。

Q, シフターセンサーを取り付けようと思うのですが長さが合いません。

A, オプションのシフトロッドを購入する必要があります。または、アフターパーツメーカー品をご準備ください。ラピッドバイクオプションシフトロッドは長さをカットして使用するタイプになります。(切り目が入っています)取付補強をする場合、ロッドの中に付属のネジを切り目部分などに絞めこんでおくと補強できます(要長さ加工)

Q, STDでついているシフターのコネクタ―は外しても大丈夫ですか？

A, メーカー、モデル、年式によってはエラーが出る場合があります。その為、エラーイレーサー機(別途、発売中)を用意してコネクタ―を外して頂く必要があります。近年のOBDIIモデルは外してしまうとエラーが出る場合があります。ご注意ください。シフターのキャンセラー等の販売は行っておりません。

Q,MAP切り替えスイッチを付けました。2MAPに自動でなりますか？

A,MAPスイッチを付けただけでは2MAP切り替えや表示は変わりません。
MAP Switchの項目からチェックを入れてAPPLYを行う必要があります。実行されるとMAPがイレースされ2MAPになります
* * 注意 * * MAP Switch機能を使う場合、必ず使用しているMAPを保存しておいてください。

MTB装着している場合、MAP2のポジションにするとMTBは補正を行いません(電源等は入ったまま補正のみOFF)
MAP1のみ補正モードとして使用可能になります。*この場合、MAP Switch機能を実行する必要はありません。
確認するにはPCを接続してMAP画面に表示されるMAP1、MAP2の切り替えを行って確認して下さい。

Q,MyTuningBikeのO2センサーはSTD-O2センサーを外して取付は出来ますか？

A,いいえ、別途溶接加工してMTB専用のワイドバンドセンサーを取り付ける必要があります。
STD-O2を取り外した場合のエラーやECUの動きなどは制御確認できません。こちらではお答えいたしかねます。
レース用のECU等でキャンセルされている場合は例外になります。

Q,MyTuningBikeの補正が行われていない？A/F値の表示が動いていない？

A,MTB専用ワイドバンドセンサーは非常にデリケートなセンサーです。消耗品になります。
マフラー内部の湿気や水分で侵されることがあります。寒い時期はIGキーONにして数秒待つようにして下さい。
MTB自己ヒーターでセンサーの温度を上昇させます。
また、転倒などでガソリンを多く被った場合なども故障する場合があります。
PCを接続して暖気後に正常なA/F値が表示されているか確認して下さい。

Q,中古で買ったMyTuningBikeを接続しましたが補正が行われませんか？故障ですか？

A,MyTuningBikeは接続後、エンジン始動した直後に接続されているラピッドバイクEVO/RACING本体のIDナンバーを読み込み、書き込みを行います。その為、**IDが違うEVO/RACING本体を接続しても使用できません。**
また、IDをイレースしたりIDチェンジを行う事は出来ませんのでご注意ください。
PCを接続してステータス画面のMyTuningBikeボタンを押していただくと登録されているIDナンバーが表示されます。

Q,MASTERソフトをインストールしました。しかし、マニュアルと画面が違ったり、表示が違います？

A,ソフトをインストール後、必ずソフトウェアをUPデート作業を行って下さい。
全ての機能は最新状態のソフトウェアで機能するようになっていきます。必ず定期的なUPデートを行うようにして下さい。

Q,前に購入したEVO,RACING本体のバージョンが低いのですが、新しいオプションは使用できますか？

A,本体のUPデートを行えば常に最新と同じ状態になります。
本体のみでUPデートを行う、又は車種書換時に自動で最新バージョンに変更を行います。
また、接続時にバージョンが低い場合はUPデートを行うか聞いてきますので必要な場合はYES選択してください。
特に使用していて新しいパーツを加えない場合は更新の必要はありませんのでNOを選択してください。

Q,上記UPデートを行おうと思ったらうまくいきませんでした。何か付属パーツを外す必要はありますか？

A, YOUTUNEを外す必要がある場合があります。コネクターを外して再度、UPデートを行うようにして下さい。

Q, MyTuningBikeも同様にうまくいきませんか？YOUTUNEを外しますか？

A, YOUTUNEを外す必要がある場合があります。コネクターを外して再度、UPデートを行うようにして下さい。

Q, 車検や点検などで一時的にノーマルに戻す場合、ラピッドバイクを全て外す必要はありますか？

A, ラピッドバイク専用バイパスアダプター(別売・ADORY)をしようしてSTD状態に戻すことが可能です。
ラピッドバイク本体をコネクターから外し、バイパスアダプターを装着してください。これでSTD状態に戻ります。
また、元に戻すときはバイパスアダプターを外してラピッドバイク本体を取り付けてください。(作業時は必ずIGキーOFF)

ただし、**ブリッパースイッチ**を装着している場合はブリッパースイッチの**スロットル接続をSTDコネクター接続に戻す**必要があります。通常のワイヤーアクセル、シフターキットの場合は問題ありません。

Q,RAPIDBIKEを装着していて車検は通りますか？又は車検対応ですか？(国土交通省確認事項)

A,多くあるご質問です。車検は装着してあるから落ちることはありません。また、違法性もありません。
但し、排気ガスが濃すぎる場合や適正な状態で使用されていない場合は車検不適合になります。
但し、STD-O2センサー以外のセンサーを装着されている場合は一時的に外す必要がある場合があります。
詳しくは各都道府県の陸運支局にてご確認ください。
車検不適合マフラーや二次エアキャンセルしているなど不適切な状態では不適合になりますのでご注意ください。
部品に対しての違法性はございませんので安心してご使用して頂けます。

Q, 転倒して故障したようなのですが修理は可能ですか？その場合どうすればよいですか？

A, 修理は可能ですが本社イタリアの工場に返送になります。非常に高価な有償修理になりますの。ディーラー店、購入店、またはRAPIDBIKE-JAPANまでご相談下さい。

Q,ラピッドバイク製品点検などは行っていますか？

A,RAPIDBIKE-JAPANで点検作業を受け付けております。製品の異常を感じた場合はまずご相談ください。内容によって有償にて対応となります。(初期不良、保証期間の場合は除く)

Q,EVO本体を持っています。RACINGに買い替えたいけど下取りなどは行っていますか？

グレードUPの為に買い替え、それに伴ってMTBの再購入などの場合、まずは購入店に一度ご相談ください。
*ご期待に沿えない場合がございます。ご了承ください。

Q, 保障期間はどれくらいですか？また、保障期間中の故障した場合はどうなりますか？

A, EVO/RACING本体の保障期間は当社出荷・購入日から1年間、又はディーラー店出荷・購入から1年間となります。通常使用にて故障した場合、EVO/RACINGのみの保証です。故障時、検査等を行います。保障期間であっても取付ミスによる故障などの場合は有償修理となります。ご注意ください。保障は本体のみの保障となります。ハーネスやケーブルの保障や修理は行えませんのでご注意ください。オプションパーツは製品ごとの補償内容等が適応されます。製品ごとにご確認ください。

製品にIDナンバーが記載されております。全ての製品がRAPIDBIKE-JAPAN&イタリア本社で登録管理されております。お問合せ頂く場合はIDナンバーをお知らせくださいますようお願い致します。

間違ったデータ書換えや、変更は故障やエラーを引き起こします。また、重大な事故になりますので個人での無理な取り付けや、ご使用はしないで下さい。個人様での取り付けやデータ書換え作業により起こりうる、故障や破損、事故など当社では一切の責任を負いかねます。製品の保証のみとなります。絶対に無理な作業等は行わないで下さい。

ご不明な点は下記まで

イタリアDIM SPORT本社サポートデスク

Phone number: +39 0142 955021 – from Monday to Friday from 09:00 am until 01:00 (CET) pm and from 02:00 pm until 06:00 pm (CET)

– E-mail address: support.rapidbike@dim sport.it

日本国内 RAPIDBIKE-JAPAN (JAM-PSD) サポートデスク

電話 048-446-7982 AM10:00-PM6:00 火曜日・イベント日休業

サポート support@rapidbike-japan.com 2021年1月より開通予定